

(烽火台)

No.	名 称	所在 地	棟 数	年 月 日	表 题	史 利群 名・採 录・出 版	差 出	宛 先	内 容
0	諸烽火台		参考	文化6年8月25日	旧福岡図書館本／中山平次郎「九州北邊に於ける文化年間の烽火台」『考古学雑誌5-7』P146	郡方覚書		「烽火場。天山 四王寺山 しやうけ越 龍王岳 六ヶ岳 石峯 丸尾此所四王寺村 (ヤマ)より移 一文(比6年)8月25日より烽火番初。御城代組3人10日交代、1ヶ所出張」	
			参考	文化7年5月10日				「5月10日より兩人番、10日交代。」	
			参考	文化8年1月26日				「同8年末12月26日以後御番人無し。」	
			参考	文化13年5月		篤斎叢書		「(文化4年アーネストン号事件をきかげに)夫より國ヶへ烽火御仕立に相成。...御國にては、天山・四王寺・六ヶ岳・石峯・丸尾此所に、御代組より町人御番有しか、3・4年にて止め。右烽火、一度もえし事ある。全く見そんじにての事也と。然れども其時從丸尾の烽火もえし事なれば、…家中大騒動也。」	
1	天山烽火台	筑紫野市 天山	(1)	文化6年10月21日～30日	烽山日記 上／『亀井南真・昭陽全集7』P22～32	烽山日記 中／『亀井南真・昭陽全集7』P33	烽山日記 下／『亀井南真・昭陽全集7』P80～85	「天山」と「石峰」に「烽火場定番」を1人ずつ置き、「烽火場小使」として石峰に4人、天山に3人を付ける。	
			(2)	文化6年12月1日～10日				天山烽火台の見張り番として、3人が新たに雇用される。	
			(3)	文化7年11月1日～10日				天山烽火場」の廢止に伴い、烽火場の運営監督の清算について。	
			参考	(文化9年)	文化九年郡方寃書	『筑紫野市史 下巻』P158		龜井昭陽、「四王寺山」で烽火番を務める。	
			参考	(文化10年12月)	文化九年郡方寃書	『筑紫野市史 下巻』P158		「此年烽火台四王寺山に出来候、長崎非常之節、出方入馬手当テ筋、様々被仰付候事。」	
			(4)	(文化13年カ)	融面仕立委	近藤文書／『筑紫野市史』P159		四王寺山付近の住人よりの聞き取りとして、四王寺山中の「火ノ尾は大野城の烽火丸余るけれども、烽家は則民満足の一つといふ」との記述。	
2	四王寺山 烽火台	太野城市 乙金町・宇美町・四王寺	(1)	文化6年12月21日～30日	連年日記	染原文書／『県報』84 長崎街道 P230		高原謙次郎の談話として、文化年間に「農民満足の認可を受けずして、雨乞の為漫然と記述。	
			(2)	(文化6年)	文政三年庚辰觀世音寺村之内 旧跡發現之図	藤井甚太郎「太宰府古圖に載て」／『歴史地理23-1』P33～36		…」との記述。	
			(3)	文政3年				「烽火場图」に、「四王寺」・「丸尾」間の中継地として「乙金」あり。	
			参考	大正3年12月15日				烽火台址 村(薬院村)ノ西南2町、丸尾ト云山ノ上ニアリ。文化ノ末、旧藩二ヶ所は不詳。此尾続キニ、御所谷ト云地アリ。	
3	乙金烽火台	大野城市 乙金	(1)	文化6年9月21日～30日	旧福岡図書館本／中山平次郎「九州北邊に於ける文化年間の烽火台」『考古学雑誌5-7』P147	郡方覚書	中山平次郎「九州北邊に於ける文化年間の烽火台」／『考古学雑誌5-7』P139	「(大休山)の高点の北方に位せる丘陵(=丸尾)に、烽火台の名称が附与せられたる事...」	
			(2)	文化7年7月11日～20日	福岡県地図全誌／『福岡県史 近代史地図編』P158		中山平次郎「九州北邊に於ける文化年間の烽火台」／『考古学雑誌5-7』P146	「右烽火、一度もえし事あり。全く見そんじにての事也と。然れども其時被丸尾の烽火もえし事なれば、…家中大騒動也。…丸尾に行みてれば、うつ高くやき草をつみ、其上に屋根ありて、四方やあらんと覺しきか、跡もなく自死となりて失ぬ。」	
			参考	大正3年12月15日	福岡県地図全誌／『福岡県史 近代史地図編』P153		烽山日記 上／『亀井南真・昭陽全集7』P13～21	「烽火台跡／十郎畠三ニアリ。台ノ迹、東西4間、南北2間半。番宅ノ迹長2間半、横3間アリ。轉屋部屋ヨリ東60度削坪。」	
			参考	大正7年8月11日～20日	福岡県地図全誌／『福岡県史 近代史地図編』P471		烽山日記 下／『亀井南真・昭陽全集7』P65～73	「烽火台跡／十郎畠三ニアリ。台ノ迹、東西4間、南北2間半。番宅ス。」	
5	ショウケ 越峰烽火台	飯塚市行策 穂町内住	(1)	文化6年9月21日～30日	福岡県地図全誌／『福岡県史 近代史地図編』P57～64	篤斎叢書	烽山日記 上／『亀井南真・昭陽全集7』P7～13	「烽火台跡／十郎畠三ニアリ。台ノ迹、東西4間、南北2間半。番宅ス。」	
			(2)	文化7年7月11日～20日	福岡県地図全誌／『福岡県史 近代史地図編』P560		烽山日記 下／『亀井南真・昭陽全集7』P7～13	「烽火台跡／十郎畠三ニアリ。台ノ迹、東西4間、南北2間半。番宅ス。」	
6	龍王山烽 火台	飯塚市 木山	(1)	文化7年8月11日～20日	福岡県地図全誌／『福岡県史 近代史地図編』P560	参考	烽山日記 上／『亀井南真・昭陽全集7』P233	「(大休山)の高点の北方に位せる丘陵(=丸尾)に、烽火台の名称が附与せられたる事...」	
			参考	昭和38年刊	福岡県地図全誌／『福岡県史』P184		烽山日記 下／『亀井南真・昭陽全集7』P7～13	「(大休山)の高点の北方に位せる丘陵(=丸尾)に、烽火台の名称が附与せられたる事...」	
7	六ヶ岳烽 火台	直方市 鞍手町	(1)	文化6年8月24日～9月3日	福岡県地図全誌／『福岡県史』P184	参考	烽山日記 中／『亀井南真・昭陽全集7』P37～56	「(大休山)の高点の北方に位せる丘陵(=丸尾)に、烽火台の名称が附与せられたる事...」	
8	石峰山烽 火台	北九州市 若松区 木	(2)	文化7年9月11日～9月21日	福岡県地図全誌／『福岡県史』P184	参考	烽山日記 下／『亀井南真・昭陽全集7』P73～P80	「(大休山)の高点の北方に位せる丘陵(=丸尾)に、烽火台の名称が附与せられたる事...」	
			(文化9年)		筑前国風土記拾遺／『筑前国綱風土記拾遺』中 P471	参考	『天山』と「石峰」に「烽火場定番」を1人ずつ置き、「烽火場小使」として石峰に4人、天山に3人を付ける。	「遠賀郡 貞「藤木村」に「○烽火所址。」	
			参考		福岡県地図全誌2／『福岡県史 近代史地図編』P780	参考		「烽火台址／石峰ノ八分、南ノ方ニアリ。…今其遭に2段許付ける。」	

No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・深録・出典	周防憲男資料(追加分) 82/『物語留岡藩史』P339	周防憲男資料(追加分) 82/『物語留岡藩史』P339	差出	宛先
1	加布里台	糸島市加布里	参考		福岡藩砲台備石火矢覚				「加布里」台場に1貫目砲2門・200貫目砲1門を備える。	
2	高祖山台	糸島市高祖山	参考		福岡藩砲台備石火矢覚				「高祖山」台場に1貫目砲3門・300貫目砲2門を備える。	
3	今津台場	福岡市西区今津かまくら	(1)	文久3年4月8日			見開略記／『見開略記』P134			
4	姪浜(小戸)台場	福岡市西区小戸	(1)	文久3年9月上旬			見開略記／『見開略記』P156		「姪浜小戸山之上ニ、新ニ御台場造成仕リ、大砲五挺計リ御砲へ附二相成申候」	
	参考	慶応元年			『福岡県史第2巻 上巻』P319				「石垣不入ニ御台場造成仕リ、大砲五挺計リ御砲へ附二相成申候」	
5	能古島台場	福岡市西区能古	参考	文久元年4月12日	黒田家文書 納領10/『黒田家譜』7				「姪浜を桑き治岸防備を企す。」	
		(1)	文久3年4月8日	(上)』P283	黒田家文書 納領10/『黒田家譜』7				「残ノ島・今津岳・志賀島等御台場御見分」	
		(2)	文久3年6月		見開略記／『見開略記』P134				「郡夫等ニ而山の上切ならし、」	
		(3)	元治元年7月		見開略記／『見開略記』P141				「石垣不入ニ御台場造成仕リ、大砲五挺計リ御砲へ附二相成申候」	
	参考				福岡藩砲台備石火矢覚				「石垣不入ニ御台場造成仕リ、大砲五挺計リ御砲へ附二相成申候」	
6	波奈合場(荒戸・福岡台場)	福岡市中央区荒戸	参考	文久元年4月12日	黒田家文書 納領10/『黒田家譜』7				「石垣不入ニ御台場造成仕リ、大砲五挺計リ御砲へ附二相成申候」	
		参考	文久3年4月7日	(上)』P283	黒田家文書 納領11/『黒田家譜』7				「福岡御台場」より城内へ連絡する。	
	参考	文久3年5月		(上)』P306	入江六郎七記録 上／『福岡県史2 上冊』P318				「北浦人家ノ西10町許。恐リ田云所ニアリ。文久元年春西新築。明治3年築ス。」	
		(1)	文久3年5月		見開略記／『見開略記』P136				「洲崎・波奈」両砲台を築き始める。波奈は6月20日落成。	
		(2)	文久3年6月23日		見開略記／『見開略記』P140				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(3)	文久3年10月		見開略記／『見開略記』P162				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(4)	元治元年		見開略記／『見開略記』P198				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
	参考				福岡藩砲台備石火矢覚				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(2)	文久3年6月17日		黒田家文書 納領10/『黒田家譜』7				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(3)	文久3年10月		見開略記／『見開略記』P135				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(4)	元治1年8月		見開略記／『見開略記』P190				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
	参考				周防憲男資料(追加分) 82/『物語留岡藩史』P339				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
7	洲崎台場	福岡市中央区須崎	参考	文久3年4月7日	黒田家文書 納領11/『黒田家譜』7				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(1)	文久3年4月	(上)』P306	見開略記／『見開略記』P135				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
	参考	文久3年5月			入江六郎七記録 上／『福岡県史2 上冊』P318				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(2)	文久3年6月17日		見開略記／『見開略記』P143				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(3)	文久3年10月		見開略記／『見開略記』P162				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(4)	元治1年8月		見開略記／『見開略記』P190				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
	参考				周防憲男資料(追加分) 82/『物語留岡藩史』P339				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
8	志賀島台場	福岡市東区志賀島	参考	文久1年4月12日	黒田家文書 納領10/『黒田家譜』7				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(1)	文久3年4月8日	(上)』P283	見開略記／『見開略記』P134				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(2)	文久3年6月		見開略記／『見開略記』P141				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(3)	元治1年7月		見開略記／『見開略記』P187				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
		(4)	元治1年		見開略記／『見開略記』P198				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
	参考				周防憲男資料(追加分) 82/『物語留岡藩史』P339				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
9	西戸崎台場	福岡市東区戸崎	(1)	元治1年	周防憲男資料(追加分) 82/『物語留岡藩史』P339				「北浦・宮浦・堀川・大手門・小身不歛御台場」	
	参考				福岡藩砲台備石火矢覚				「西戸崎」台場に1貫目砲2門を備える。	

No.	名稱	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・深鑽・出典	差出	宛先	内容	
10	芦屋町芦屋	参考 文久3年6月1日			黒田家文書 納領11／「黒田家譜」7 年曆算ノ『遠賀町近世古文書年譜』 P109				「芦屋原砲台」築立。	
		参考 文久3年			福岡藩砲台備石火矢覚	周防憲男資料（追加分）82／『物語留 圖譜史』P339			6月、芦屋・山鹿に台場築立始まり、7月下旬に完成す。惣奉行吉田六郎大夫様。7 月25日吉屋惣康上げ、台場に石火矢5挺詰わる。	
11	柏原（山鹿）台場	(1) (明治1年)辰6月 参考 文久3年	覚		黒田家文書 納領11／「黒田家譜」7 年曆算ノ『遠賀町近世古文書年譜』 P109	小田家文書／『芦屋町誌』P735			「芦屋原砲台」築立。	
		(2) (明治1年)辰6月 参考 文久3年	福岡藩砲台備石火矢覚		黒田家文書 納領11／「黒田家譜」7 年曆算ノ『遠賀町近世古文書年譜』 P109	周防憲男資料（追加分）82／『物語留 圖譜史』P339			「芦屋原砲台」築立。	
12	中島台場	北九州市戸畠区	(1) 文久3年5月27日 参考 文久3年6月1日		黒田家文書 納領11／『黒田家譜』7 （上）P309 入江六郎七記録 上／『福岡県史第2巻 上編』P318	小田家文書／『芦屋町誌』P735	見聞略記／『見聞略記』P139		「若松浦中島砲台」築立。	
		(2) 文久3年6月 参考 文久3年	福岡藩砲台備石火矢覚		黒田家文書 納領11／『黒田家譜』7 （上）P309 入江六郎七記録 上／『福岡県史第2巻 上編』P318	周防憲男資料（追加分）82／『物語留 圖譜史』P339	見聞略記／『見聞略記』P143		「若松浦中島砲台」築立。	
		(3) (慶応3年)11月 参考 文久3年11月	福岡藩砲台備石火矢覚 止ニ付御簡道具共ニ中鷹江 御引廻夫並ニ御簡開木屋仕調 共三仕合上帳		『戸畠市史 第2集』P282	年曆算ノ『遠賀町近世古文書年譜』 P179	周防憲男資料（追加分）82／『物語留 圖譜史』P339	「若松浦中島」台場に2貫目砲2門・1貫目砲2門・800目砲1門・500目砲1門・300目砲1 門を備える。このほか、「若松」に800目砲3門を備える。	「赤間が關度々之驕動ニ付、若松ノ島へ御台場出來」、「中ノ島之御台場」に 「武貫目位之大砲」を置く。	
		(4) (慶応3年)11月 参考 文久3年11月	戸畠村名古屋崎御台御取 止ニ付御簡道具共ニ中鷹江 御引廻夫並ニ御簡開木屋仕調 共三仕合上帳		『戸畠市史 第2集』P284	底井野郡役所 普請方 横野一人郎 若松村組員 清	底井野郡役所 石村々 (修多羅村・ 小石村) 庄屋衆中 作、同村庄屋 計山草次	「若松浦中島砲台」取止めに付、「御筒並ニ玉葉・砲座盤版」引き取りのため役人 を派遣する。これらの品々を「中鷹御台場」近辺に置いて置く。	「名護屋臨御台場」取止めに付、「御筒並ニ玉葉・砲座盤版」引き取りのため役人 を派遣する。これらは「戸畠村名古屋崎御台地」取止めに付、「御道具」の「中鷹御台場所」への運搬に 門を備える。このほか、「若松」に800目砲3門を備える。	
		(5) (慶応3年)11月12日 参考 文久3年11月23日	遠賀鞍手郡役所達覚 楠野太一郎夫触		『戸畠市史 第2集』P285	『戸畠市史 第2集』P287	若松村組員 清 楠野太一郎 遠賀鞍手御郡御役所 計山草次	「名古屋崎御台場より中島御台場迄御道具積運ニ付御取止め」、「御道具中鷹御台場」引廻に係る諸 費用の不足分について。	名古屋崎台場を廢し、その諸道具等を中島台場に移す。	
		(6) (慶応3年)11月 参考 文久3年11月13日	岩松村組頭・庄屋船賃請書 楠野太一郎書状		『戸畠市史 第2集』P286	福岡県地理全誌ノ『福岡県史 近代史 料編 地理全誌2』P733	楠野太一郎 遠賀鞍手御郡御役所 計山草次	「近年鷲の北辺ニ、藩ヨリ砲台を設チラ。」 「去る卯冬戸畠村名古屋崎御台場召仕船賃請申上候事」	「名護屋」台場に5貫目砲2門を備える。	
		(7) (慶応4・明治1年)5月 参考 文久3年11月13日	岩松村組頭・庄屋船賃請書 楠野太一郎書状		『戸畠市史 第2集』P287	『戸畠市史 第2集』P382	（陸軍所轄地旧砲台 地価格取額方） 戸畠村役場	「河斜島」「中田砲台」の面積「5反7畝36歩」、1反価格「60円」の記載。	「名護屋」台場に5貫目砲2門を備える。	
		(8) (慶応4・明治1年)5月 参考 文久3年11月13日	福岡県地理全誌ノ『福岡県史 近代史 料編 地理全誌2』P733		『戸畠市史 第2集』P385	戸畠村役場 若松町	（戸畠村役場カ） 戸畠村役場 若松町	「河斜島」「中田砲台」の面積「5反7畝36歩」、1反価格「60円」の記載。	「名護屋」台場に5貫目砲2門を備える。	
		(9) (明治27年)3月5日 参考 明治29年6月12日	陸軍所轄地旧砲台地価格取調 方宛回答		『戸畠市史 第2集』P386	福岡県選質部戸 畠村 尚田一 定、同県同郡若 松町長 中屋重 義	（陸軍所轄地旧砲台 地価格取額方） 戸畠村役場 若松町	「河斜島」「中田砲台」の面積「5反7畝36歩」、1反価格「60円」の記載。	「名護屋」台場に5貫目砲2門を備える。	
		(10) (明治30年)7月12日 参考 明治31年10月25日	旧砲台敷地拝顕返戻 保安林政府買収の義上申		『戸畠市史 第2集』P389	福岡県選質部戸 畠村 尚田一 定、同県同郡若 松町長 中屋重 義	（陸軍所轄地旧砲台 地価格取額方） 戸畠村役場 若松町	「河斜島」「中田砲台」の面積「5反7畝36歩」、1反価格「60円」の記載。	「名護屋」台場に5貫目砲2門を備える。	
13	名古屋崎台場	北九州市戸畠区中原	(1) 文久3年5月27日 (2) 元治1年8月 参考 文久3年11月 (4) (慶応3年)11月12日	名古屋崎御台場木屋掛入用 品々代出 間通 福岡藩砲台備石火矢覚 止ニ付御簡道具共ニ中鷹江 御引廻夫並御筒開木屋仕調 共三仕合上帳	『戸畠市史 第2集』P280 『戸畠市史 第2集』P282 『戸畠市史 第2集』P284	周防憲男資料（追加分）82／『物語留 圖譜史』P339 『戸畠市史 第2集』P389 『戸畠市史 第2集』P389	見聞略記／『見聞略記』P139 『戸畠市史 第2集』P280 『戸畠市史 第2集』P282 『戸畠市史 第2集』P284	「若松浦中島砲台」築立。	「長州藩による關門海峡通行の外国砲撃の影響で」、「御筒並ニ玉葉・砲座盤版」に付、「御筒並ニ玉葉・砲座盤版」引廻に置く。	「名護屋」台場に5貫目砲2門を備える。
		(3) (慶応3年)11月 参考 文久3年11月	戸畠村名古屋崎御台御取 止ニ付御簡道具共ニ中鷹江 御引廻夫並御筒開木屋仕調 共三仕合上帳						名古屋崎台場を廢し、その諸道具等を中島台場に移す。	
		(4) (慶応3年)11月12日	底井野郡役所達覚						名古屋崎台場を廢する。これらの品々を「中鷹御台場」近辺に置く。	

No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・採録・出典	差出	宛先	内容
13	名古屋輪台場	北九州市戸畠区中原	(5) (慶応3年) 11月23日 (6) 慶応3年11月 (7) (慶応4・明治1年) 5月 (8) (慶応4・明治1年) 5月 (9) 明治27年3月5日	楠野太一郎夫歴 若松村組頭・庄屋船賃請書 水夫糧米・諸入用鉢納付書 陸軍所轄地田舎台地価格取調 方完回答	『戸畠市史 第2集』P285 『戸畠市史 第2集』P287 『戸畠市史 第2集』P286 『戸畠市史 第2集』P286 『戸畠市史 第2集』P382	普請方 楠野太一郎 若松村頭 清作、同村正屋 許山酒次 戸畠村主屋 高崎正三郎 楠野太一郎 (戸畠村役場カ)	右村々 (修多羅村・小石村) 住屋兼中 遠賀駿 遠賀駿 遠賀駿 遠賀駿 遠賀駿	右村々 (修多羅村・小石村) 住屋兼中 「戸畠村名古屋輪台場」取止めに付、「御道具」の「中島御台場所」への運搬に ついて、料未を譲す。 「名古屋輪台場迄御道具御駕廻二付御召仕船御請申上候事」 「名古屋輪台場より中島御台場所」、納付書。 「去る卯冬戸内御村名古屋輪台場取止」、「御道具中島御台場」引廻に係る諸費 用の不足分について。 「名古屋」「田舎台」の面積「9反4畝12歩」、「1反価格「3円」の記載。	
	〔小倉番〕 〔遠見番所〕								
No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・採録・出典	差出	宛先	内容
1	筑前曳川	北九州市小倉北区	参考 正徳5年			『福岡県史資料 第二輯』P480			遠見番所を置く。
2	小倉川口	北九州市小倉北区	参考 正徳5年			『福岡県史資料 第二輯』P480			遠見番所を置く。
3	門司遠見番所	北九州市門司区門司	参考 正徳5年			『福岡県史資料 第二輯』P480			遠見番所を置く。
4	田浦遠見番所	北九州市門司区田浦	参考 正徳5年			『福岡県史資料 第二輯』P480			遠見番所を置く。
5	大里遠見番所	北九州市門司区大里	参考 正徳5年			『福岡県史資料 第二輯』P480			遠見番所を置く。
6	茹田松山	京都府京都市左京区松山	参考 正徳5年			『福岡県史資料 第二輯』P480			遠見番所を置く。
7	藍島遠見番所	北九州市小倉北区藍島	参考 文久3年5月10日			『福岡県史資料 第二輯』P480			遠見番所を置く。
8	馬島(小六連島)	北九州市小倉北区	参考 享保1年6月26日			『福岡県史資料 第二輯』P480、『北九州市史 近世』P746			小倉藩機関記「行橋市史 中巻」 『福岡県史資料 第二輯』P480
9	葛葉遠見番所	北九州市門司区	参考 正徳5年			『福岡県史資料 第二輯』P480			『福岡県史資料 第二輯』P480
	〔烽火台〕								
No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・採録・出典	差出	宛先	内容
1	足立山烽火台	北九州市小倉北区・南区	参考 文化6年1月20日			『豊津町史料編 豊津藩 歴史と風土第10輯』P7			烽火台の試し焚きを行う。
2	堀越山烽火台	北九州市小倉南区堀越	参考 慶応2年10月5日			豊國駆記 第十七／『福岡県企教部誌』P185			堀越山峯に烽火を揚げると、狸山の本陣小宮民部より、応援として農兵100人を差し向ける。
3	観山烽火台	行橋市観山	参考 文化6年1月20日			『豊津町史料編 豊津藩 歴史と風土第10輯』P7			烽火台の試し焚きを行う。
4	角田の峰尾烽火台	豊前市角田	参考 文化6年1月20日			『豊津町史料編 豊津藩 歴史と風土第10輯』P7			烽火台の試し焚きを行う。
5	吉見陣烽火場	金救郡	(1) 文化11年正月14日 (2) 文久3年4月27日			忠臣公年譜・中村平左衛門日記／『小倉市誌 編』P90 中村平左衛門日記／『小倉市誌 編』P98			企救郡吉見烽火場に火を擧げる者あり。 砲台成城につき、一緒に御酒を下さる。

No.	名称	所在地	校番	年月日	表題	史料群名・採録・出典	差出	宛先	内容
1	堺鼻湊口 北九州市 中井浜 台場	北九州市 小倉北区 中井浜	(1)	文久3年5月10日		小倉藩撫夷記／『行橋市史 中巻』 P624、『北九州市史』P746			小倉藩、藩内に異国船を見るに従つて、号砲を連次に3回打発することを通知する。
2	東西台場 (東浜台場・西浜台場)	北九州市 小倉北区 紫川河口	(1)	文久3年3月4日		文久三年より亥子丑迄時勢變動記 枡 木敷二郎／『豊津町史』史料編 之助日記／『福岡県史資料 第7編』 P522、『北九州市史 近世』P821			小倉の紫川河口東西台場に大砲が据え付けられる。4月7日、砲術方門田一郎(榮)とその門下によつて号砲を連次に3回打發することを行つ。10日、藩主見分。27日、西台場にて東西台場の竣工式を藩主臨席のもとに行う。
			参考	文久3年5月18日		小倉藩撫夷記／『北九州市史 近世』 P746			小倉藩、藩内に異国船を見るに従つて、号砲を連次に3回打發することを通知する。
3	大里砲台	北九州市 門司区大里	(1)	元治1年5月15日～18日		文久四年甲子歳日記新町村豊田重蔵撰 ／『門言市史』P12～3			17日、長州藩軍艦3艘、田ノ浦・門司を襲う。抗戦の後、小倉藩第一軍の島村貫 倫、田ノ浦を去り、第三軍恭田見新、第六軍小笠原鐵衛、軍と合流し、小倉東西南砲台に屯する。第二軍は小笠原近江守の軍と交代し、大里駅、馬寄砲台からも砲 火に陣す。7月3日、長州藩、引島砲台から大里・馬寄を砲撃。櫛浦古台場からも砲 撃。新羅姫より上陸し、大里を襲う。敵の大兵火により、大里・馬寄を撤退。27日、 長州藩、勘使松ノ台場から砲撃、別軍が大兵火により、大里・馬寄ノ砲を襲う。赤坂台場、 延命寺台場は小倉要衝の地で、こから攻め登る。兵後の将兵とともに抗戦する も、将軍家茂の薨去により、小倉藩は小倉城を自縊し、香春に退く。
			(2)	慶応2年6月4日～7月23日		島村貫倫伝 (松島一郎)・藤田弘策 日 記／『門司市史』P216・284～5			17日、長州藩軍艦3艘、田ノ浦・門司を襲う。抗戦の後、小倉藩第一軍の島村貫 倫、田ノ浦を去り、第三軍恭田見新、第六軍小笠原鐵衛、軍と合流し、小倉東西南砲台に屯する。第二軍は小笠原近江守の軍と交代し、大里駅、馬寄砲台からも砲 火に陣す。7月3日、長州藩、引島砲台から大里・馬寄を砲撃。櫛浦古台場からも砲 撃。新羅姫より上陸し、大里を襲う。敵の大兵火により、大里・馬寄を撤退。27日、 長州藩、勘使松ノ台場から砲撃、別軍が大兵火により、大里・馬寄ノ砲を襲う。赤坂台場、 延命寺台場は小倉要衝の地で、こから攻め登る。兵後の将兵とともに抗戦する も、将軍家茂の薨去により、小倉藩は小倉城を自縊し、香春に退く。
4	小森江砲台	北九州市 門司区葛葉			島村貫倫伝 (松島一郎)・長防益討日 記・小倉口第一戰略日記・櫛田記事 (山県 有朋)・豊國戰記 (佐野經珍)・柳田 道保神ノ台場日記・藤田弘策日記・浩山日 記・高瀬氏記録・高瀬氏諸日記／『門 市史』P216～304				17日、長州藩軍艦3艘、田ノ浦・門司を襲う。抗戦の後、小倉藩第一軍の島村貫 倫、田ノ浦を去り、第三軍恭田見新、第六軍小笠原鐵衛、軍と合流し、小倉東西南砲台に屯する。第二軍は小笠原近江守の軍と交代し、大里駅、馬寄砲台からも砲 火に陣す。7月3日、長州藩、引島砲台から大里・馬寄を砲撃。櫛浦古台場からも砲 撃。新羅姫より上陸し、大里を襲う。敵の大兵火により、大里・馬寄を撤退。27日、 長州藩、勘使松ノ台場から砲撃、別軍が大兵火により、大里・馬寄ノ砲を襲う。赤坂台場、 延命寺台場は小倉要衝の地で、こから攻め登る。兵後の将兵とともに抗戦する も、将軍家茂の薨去により、小倉藩は小倉城を自縊し、香春に退く。
5	萬葉台場	北九州市 門司区葛葉	(1)	文久3年3月27日		島未接戦論の盛んであった頃、長州藩は小森江に海岸砲台を築造した。その長さは 100間余 (高さ9尺、幅3間余) といふ (吉野春二郎氏談)。			
6	門司台場	北九州市 門司区門司 門司		参考 文久3年頃か、 参考 文久3年3月27日		浅野陽吉 豊前大里に於ける久留米藩 の経営／『郷土研究筑後』第7巻第7 号、1933年			大里の戦いで、地雷火にかかるて慾りたので、一人も台場の外へ出ず。
7	桙ヶ鼻台場	北九州市 門司区門 門司		参考 文久3年5月18日		企教郡小森承之助日記／『福岡県史資 料 第7編』P522、小倉藩史年表／『福 岡県史資料 第10輯』P607			幕末接戦論の盛んであった頃、長州藩は久留米藩の敷入場の前面であつた といふ (吉野春二郎氏談)。
8	速戸台場	北九州市 門司区門 門司		参考 文久3年5月10日		小倉藩撫夷記／『行橋市史 中巻』 P624、『北九州市史 近世』P746			小倉藩、藩内に異国船を見るに従つて、号砲を連次に3回打発することを通知する。
9	新開ノ上 山	北九州市 門司区門 野浦	(1)	文久3年6月25日・26日		小倉藩撫夷記／『行橋市史 中巻』 P624、『北九州市史 近世』P746			小倉藩、藩内に異国船を見るに従つて、号砲を連次に3回打発することを通知する。
10	田野浦台 場	北九州市 門司区門 野浦	(2)	文久3年7月24日		豊田氏方日記／『門司市史 中巻』 P191			長州藩士100人と台場群入夫ほどが田野浦に来て、台場を築く。
			(1)	文久3年7月15日		小森承之助日記／『門司市史 中巻』 P196			長州藩士、幕府の異形船に田野浦新開台場から3発撃ちかける。
			(2)	文久3年7月18日		小倉藩撫夷記／『行橋市史 中巻』 P628			長州兵、田野浦を不法に占拠し、台場を築く。
						白石正一郎日記／『門司市史』P207、 企教郡小森承之助日記／『福岡県史資 料 第7編』P524			勘使正親町公董卿、16日に田ノ浦台場、18日に引島弟子松台場・大里久留米屋敷ノ 台場を巡視する。

No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・深鑽・出典	差出	宛先	内容
									文久二年万日記控・豊田氏／『門司市史』P194
10	田野浦台場		(3)	文久3年7月24日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉藩軍艦3艘、田ノ浦・門司を襲う。抗戦の後、小倉藩第一軍の島村貫倫、長州藩軍艦3艘、田ノ浦を去り、第三軍涉田見新、第六軍小笠原鐵衛、第一軍の島村貫倫、大里駅、馬寄と合流し、小倉東西両砲台に屯する。第二軍は小笠原近江守江守と交代し、大里駅、馬寄を砲撃。島村貫倫は小笠原近江守江守と交代し、大里駅、馬寄を砲撃。敵の大兵火により、大里・馬寄を襲う。敵の大兵火により、大里・馬寄を撤退。27日、長州藩、引島砲台から大里・馬寄を襲う。敵の大兵火により、大里・馬寄を撤退。敵の大兵火により、大里・馬寄を襲う。赤坂台場・延命寺台場は小倉要衝の地で、ここから改め登る。肥後の將兵とともに抗戦するが、香春に退く。
11	せき忠台場	北九州市門司区田野浦	(4)	慶応2年6月17日～7月27日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・藤田弘策日記・高瀬氏諸日記／『門司市史』P216～304
12	笠石畠台場	北九州市門司区田野浦	(1)	文久3年6月25日・26日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・藤田弘策日記・高瀬氏諸日記／『門司市史』P191
13	登ヶ所大砲式艇居方	北九州市門司区田野浦	(1)	文久3年6月25日・26日					豊田氏万日記控／『門司市史』P191
14	葛原台場	北九州市小倉南北区葛原		参考 文久3年5月10日					豊田氏万日記控／『門司市史』P191
〈台場（第二次長州戦争時）〉									
No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・深鑽・出典	差出	宛先	内容
1	赤坂台場	北九州市小倉南北区赤坂	(1)	慶応2年7月27日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・高瀬氏諸日記／『門司市史』P216～304
2	延命寺台場	北九州市小倉南北区赤坂	(1)	慶応2年7月27日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・高瀬氏諸日記／『門司市史』P216～304
3	官尾台場	北九州市小倉南北区篠崎町		慶応2年10月4日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・高瀬氏諸日記／『門司市史』P216～304
4	裏園台場	北九州市小倉南北区熊谷		参考 慶応2年10月4日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・高瀬氏諸日記／『門司市史』P216～304
5	今村砲台	北九州市小倉南北区今町		参考 慶応2年8月15日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・高瀬氏諸日記／『門司市史』P216～304
				参考 慶応2年9月9日					島村貫倫伝（松島一郎）・長防征討日記・小倉争日記・櫛田日記事（山川有朋）・豊國戰記（佐野経彦）・柳田道保陣中日記・藤田弘策日記・桝山日記・高瀬氏記録・高瀬氏諸日記／『門司市史』P216～304

No.	名稱	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・採録・出典	差出	宛先	内容
5	今村砲台		参考	慶応2年9月28日		豊国戦記 第十四／『福岡県全教郡 教部誌』P163		松本藤三郎、今村の下山の轟に台場を築く。	
			参考	慶応2年10月4日		豊国戦記 第十六／『福岡県全教郡 教部誌』P171～4		松本藤三郎、今村、宮尾、漁闘ヶ所の台場を守る。長州兵の攻撃により、今村台 場が落ち、松本藤三郎、戦死する。	
6	高坊山 (高坊 山) 台場	北九州市 小倉北区 高坊	参考	慶応2年10月4日		修訂防長回天史 五中九／『福岡県企 教部誌』P105		長州兵、今村砲台を攻撃し、陥とす。	
7	高隊台場	北九州市 小倉北区 高坊	参考	慶応2年8月27・28日		豊国戦記 第十一・十二・十三、丙寅 之御変動御本陣御後備大砲打方並附属 小銃隊戦明細方／『福岡県企教郡 教部誌』P135、138、228		門田栄の小銃隊、北方原の台場を乗つた勢いで、高坊山の台場を乗つ取り、破 却する。	
8	黒原砲台	北九州市 小倉北区 黒原	参考	慶応2年8月29日		豊国戦記 第十一・十二／『福岡県企 教部誌』P135		門田勢、高隊の台場に退却する。高坊山の松林數ヶ所に地雷火を埋めてあるとの里 人等の注進により、立石原、十文字の台場を攻撃することを中止する。	
9	足立山台場	北九州市 小倉北区・南区 足原	参考	慶応2年10月4日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企 教部誌』P100		奇兵隊、黒原砲台より米利堅語布留を斂発遠撃し、長州兵の勢いを助けける。	
10	猿ヶ森台場	北九州市 小倉北区・南区 足原	参考	慶応2年8月16日		修訂防長回天史 五中九／『福岡県企 教部誌』P106		奇兵隊白尾行八郎一手、黒原砲台より、仏蘭西式砲二門を率いて来て戰う。	
11	新町東山 上砲台	北九州市 小倉南区 北方	参考	慶応2年8月15日		豊国戦記 第十九／『福岡県企教郡 教部誌』P125		長州の大石雄太郎、足立山の麓に數十の台場を立てる。この他に湯川、大平山に 3ヶ所の台場を築き、同村長野道、水神ヶ森、新町、高坊山の四辻、立石原等に台 場を構える。大畠、瀬川屋敷、山王ノ森、中野山、蓮ノ池の辺り、妙見社の麓、二 ツの池の辺などには、伏台場を築く。	
12	北方原台場	北九州市 小倉南区 北方	参考	慶応2年8月28日		豊国戦記 第十一・十二／『福岡県企 教部誌』P135		長門勢、足立山、猿ヶ森の台場より、大砲を打ち出して對戦する。	
13	地蔵原台場	北九州市 小倉南区 北方	参考	慶応2年10月4日		修訂防長回天史 五中九／『福岡県企 教部誌』P106		長門勢、足立山、猿ヶ森の台場より、大砲を打ち出して對戦する。	
14	原山台場	北九州市 小倉南区 北方	参考	慶応2年8月28日		豊国戦記 第十一・十二／『福岡県企 教部誌』P135		小笠原軍、紺屋原の北、新町の東、兩山上に二砲台を設け、守護台を設け、吉兼、祇園町 の頭と祇園町の頭と祇園社頭、高野（2ヶ所）、南方（一軒 屋の上、岩鼻の上）、蒲生（2ヶ所）、今村等の山により砲台を起こし、小倉城跡 に迫らうとする。	
15	尾平山砲台	北九州市 小倉南区 湯川	参考	慶応2年8月17日		豊国戦記 第十九／『福岡県企教郡 教部誌』P128		長門勢、北方地盤原に台場を築き、陣営を構える。	
16	北豐野我 谷場	北九州市 小倉南区 湯川	参考	慶応2年9月9日		豊国戦記 第十三／『福岡県企教郡 教部誌』P149		小倉勢の松本熊太郎、原山台場に隊士6人と戦り、長門勢と戦う。	
17	垣松山上 砲台	北九州市 小倉南区 湯川	参考	慶応2年9月12日		豊国戦記 第十四／『福岡県企教郡 教部誌』P151		長門勢、北方原に押し出し、原山台場を攻撃する。松本熊太郎、原山台場を固め る。	
			参考	慶応2年9月15日		豊国戦記 第十四／『福岡県企教郡 教部誌』P151		長門勢、原山近く押し寄せ。松本熊太郎等7人、台場を防ぎかねたが、渋田昇新 の隊上常盤常右衛門、応援に走り来て、長州勢の横合を討撃し、長州勢、退却す る。	
			参考	慶応2年9月17日		豊国戦記 第十四／『福岡県企教郡 教部誌』P156		掛屋原上切松の台場を固める深谷小太郎の隊士松本熊太郎は、原山の台場に築人形 を並列して人がいるように見せかける。	
			参考	慶応2年10月3日		豊国戦記 第十五／『福岡県企教郡 教部誌』P169		長門勢、深谷小太郎、原山の台場を固める。	
			参考	慶応2年8月28日		修訂防長回天史 五中八／『小倉市誌 補遺』P607		長州兵、尾平山砲台を守る。	
			参考	慶応2年8月28日		修訂防長回天史 五中八／『小倉市誌 補遺』P607		長州兵、北陽野戰台を守る。	
			参考	慶応2年8月28日		修訂防長回天史 五中八／『小倉市誌 補遺』P607		長州兵、垣松山上砲台を守る。山上砲台より臼砲を發射する。小倉兵去る。	

No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・採録・出典	差出	宛先	内容
									参考
18	湯川台場	北九州市 小倉南区 湯川	参考	慶応2年8月28日		豊国戦記 第十一・十二／『福岡県企 救部誌』P133		小倉兵、萬原正明寺の台場を目指けて打ち出でる。長州勢は、湯川新池堤の辺に構 えた數十の營し台場より発砲して、本台場と協力して戦う。	
19	恵良山砲 台	北九州市 小倉南区 湯川	参考	慶応2年8月29日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企 救部誌』P101		湯川砲台より高田兵、小倉兵を遠撃する。	
20	葛原台場	北九州市 小倉南区 葛原	参考	慶応2年10月7日		豊国戦記 第十七／『小倉市誌 補 遺』P65、『福岡県企救部誌』P194		湯川台場を守る湯川勘左衛門、思いがけない背面からの長州勢の攻撃により、落ち 失せろ。	
21	疫神原砲 台	北九州市 小倉北区 葛原	参考	慶応2年8月29日		小倉政時代記 内山圓治記録／『福 岡県企救部誌』P224		長州勢 奇兵隊、報国隊を葛原村正氣原、湯川村尾恵良山両砲台に配備し、山県狂 助を総監とし、狸山口小倉藩諸備の出動を押え、島村諸隊の陣地に対する。	
22	正明寺台 場	北九州市 小倉南区 葛原	参考	慶応2年8月28日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企 救部誌』P96		長州兵、葛原の葛原台場を攻撃する。	
23	宗毛原砲 台	北九州市 小倉南区 葛原本町 ・沼本町	参考	慶応2年8月29日		豊国戦記 第十一・十二／『福岡県企 救部誌』P133		小倉兵、葛原正氣原、正明寺、洗出川の台場より、中曾根を放 火する。	
24	洗出川台 場	北九州市 小倉南区 葛原本町 ・沼本町	参考	慶応2年8月19日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企 救部誌』P96		長州兵、曾祢より東北葛原、湯川の後面宗毛原台場を焼き、葛原対東路傍、 湯川北隅、垣松山上、山下、湯川の前面尾平山等五所に砲台を置き、北黒原より足 立に連なり、砲台相属す。小倉兵、曾祢西北山辺より、茅山（朽繩の手前）、能習 原等に連なり、砲台を各所に置く。	
25	正氣原砲 台	北九州市 小倉南区 葛原	参考	慶応2年8月29日		豊国戦記 第十一・十二／『福岡県企 救部誌』P133		小倉勢は台場に引き籠り、長州勢は葛原、正明寺、洗出川の台場より、中曾根を放 火する。	
26	下原台場	北九州市 小倉南区 葛原・東 西朽繩	参考	慶応2年8月28日		小倉政時代記 内山圓治記録／『福 岡県企救部誌』P224		長州兵、曾祢より東北葛原、湯川の後面宗毛原台場を焼き、葛原対東路傍、 湯川北隅、垣松山上、山下、湯川の前面尾平山等五所に砲台を置き、北黒原より足 立に連なり、砲台相属す。小倉兵、曾祢西北山辺より、茅山（朽繩の手前）、能習 原等に連なり、砲台を各所に置く。	
27	辻藏台場	北九州市 小倉南区 辻三	参考	慶応2年10月7日		修訂防長回天史 五中八／『小倉市誌 補遺』P608		長州兵、尾原に向かう中城と、中城に向かう小さな台場等から一斉狙撃する。	
28	太陽山正 面砲牆	北九州市 小倉南区 (1)	参考	慶応2年8月17日		豊国戦記 第十七／『小倉市誌 補 遺』P651、『福岡県企救部誌』P194		小笠原軍、吉兼・金山・辻藏の台場を退却する。	
29	原砲台	北九州市 小倉南区 朽網東・ 西	参考	慶応2年8月11日		悟山筆記 小倉藩上松本退職記録／ 『小倉市誌』P611		長州軍、太賀山正面の高みに門を開て、柵を振り、砲櫓を設ける。	
30	御庄津砲 台	北九州市 小倉南区 朽網東・ 西	参考	慶応2年8月11日		修訂防長回天史 五中八／『小倉市誌 補遺』P606		長州兵、小倉兵が籠る理場山に向かう右手の原砲台より登る。	
31	黒崎砲台	北九州市 小倉南区 朽網東・ 西	参考	慶応2年8月11日		修訂防長回天史 五中八／『小倉市誌 補遺』P606		長州兵、小倉兵が籠る理場山に向かう左手の海浜の黒崎砲台より登る。	
32	狸山台場	北九州市 朽網	参考	慶応2年8月16日		豊国戦記 第十九／『福岡県企救部 誌』P125		小倉兵、10日の戦いに敗北したので、16日夜より、狸山、貴松山、浜寺に台場を築 き建てる。	
33	原砲台	北九州市 小倉南区 朽網	参考	慶応2年9月17日		豊国戦記 第十四／『福岡県企救部 誌』P155～6		長州勢、企救郡所綱蛭子山に攻め寄せせる。德力嵐山に掛けた陣籬を合図に、秋羽山 より津田岡之丞、数名の大砲を打ち出し、長州勢、立石原に退く。狸山口には小笠 原鬼角、中野一角、その他30人隊物頭等、尾友、台場を用める。	
34	黒崎砲台	北九州市 小倉南区 朽網東・ 西	参考	慶応2年10月6日		小倉政時代記 内山圓治記録／『福 岡県企救部誌』P224		10月5日、長州勢3000～4000人、島村志津溝部の各隊に総攻撃。6日に各隊退却。 小笠原正參100余人を引率し、貴山の山腹耳取り山に坂台場を築く。	

No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・探釣・出典	卷出	宛先	内容
33	端山上下台場	北九州市 小倉南区 桺岡東・ 西丸	(1)	慶応2年8月17日		悟山筆記 小倉藩士松本退職記録／ 『福岡県全教郡誌』P207			太賀山に閑門を置き、近くの端山の上下に台場を築く。閑門浜手四番手六番手の台場に、長州兵、大小銃を打ちかけ、進み来る。小倉兵も防戦する。
34	貴松山台場	北九州市 小倉南区 桺岡南 村網丸	参考	慶応2年8月16日		悟山筆記 第十九／『福岡県全教郡 誌』P125			小倉兵、10日の戦いに敗北したので、16日夜より、狸山、貴松山、浜寺に台場を築き建てる。
35	浜寺台場	北九州市 小倉南区 桺岡南 村網丸	参考	慶応2年8月16日		豊国戰記 第十九／『福岡県全教郡 誌』P125			小倉兵、10日の戦いに敗北したので、16日夜より、狸山、貴松山、浜寺に台場を築き建てる。
36	鳥喰山砲台	北九州市 小倉南区 上曾根・ 上貫・ 憲・志井 養	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県全 教郡誌』P103			小笠原軍、修訂防長回天史 五中九／『福岡県全 教郡誌』P108
37	唐戸台場	北九州市 小倉南区 下曾根	参考	慶応2年10月4日		豊国戰記 第十六／『福岡県全教郡 誌』P181			小倉兵、松尾山、隱義を捨て、鳥喰山砲台を要守する。長州兵、鳥喰山を攻め、小倉兵は支えきれずにして走る。
38	下草根社 米蔵跡 台場	北九州市 小倉南区 下曾根 下曾根丸	(1)	慶応2年10月4日		悟山筆記 小倉藩士松本退職記録／ 『福岡県全教郡誌』P214			高浜寛一郎、唐戸台場を乗つ取ろうと攻め寄せせる。長門勢、唐戸台場に引き籠る。
39	蒲生砲台	北九州市 小倉南区 蒲生	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県全 教郡誌』P103			下曾根社宗米蔵跡に台場を築く。
40	二神山台場	北九州市 小倉南区 蒲生丸	参考	慶応2年9月9日		小倉藩政時代記 内山圓治記録／『福 岡県全教郡誌』P223			小笠原軍、新町の東、兩山上に砲台を設け、守垣の北側諱森に野戦砲台を設け、守垣の北側諱森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町頭と祇園社頭)、南方(2ヶ所)、南房(2ヶ所)、蒲生(2ヶ所)、今村等の山上に砲台を起こし、小倉城跡に迫らうとする。
41	南方砲台	北九州市 小倉南区 南方	参考	慶応2年9月17日		豊国戰記 第十四／『福岡県全教郡 誌』P156～6			9月19日の小倉城下総攻撃の勝利に乘じ、青柳彦十郎、蒲生村に進出し、虹山の麓に台場を築き守る。
42	高野砲台	北九州市 小倉南区 高野	参考	慶応2年9月12日		豊国戰記 第十四／『福岡県全教郡 誌』P151			長州勢、企救郡巧綱蛭子山に攻め寄せる。徳力嵐山に掛ける陣籬を合図に、秋羽山より津田岡之丞、数衆の大砲を打ち出し、長州勢、立石原に退く。蒲生、高野口には青柳彦十郎の隊が台場を固める。
43	東福寺山 台場	北九州市 小倉南区 高野	参考	慶応2年8月15日		豊国戰記 第十四／『福岡県全教郡 誌』P153			有馬政之丞、兵を分けて、二神山、東福寺山の両台場を固めて、長州勢を待ち受け
44	金山台場	北九州市 小倉南区 高野	参考	慶応2年8月20日		豊国戰記 第十四／『福岡県全教郡 誌』P159			有馬政之丞、二神山台場に引き揚げ、長州勢の形勢を見定める。
45	稻荷峠台場	北九州市 小倉南区 長尾	参考	慶応2年8月15日		豊国戰記 第十四／『福岡県全教郡 誌』P165			小笠原近江守貞正、二神山台場を巡視する。
46			参考	慶応2年10月4日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県全 教郡誌』P103			小笠原軍、新町の東、兩山上に2砲台を設け、守垣の北側諱森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町頭と祇園社頭)、高野(2ヶ所)、南房(2ヶ所)、今村等の山上に砲台を起こし、小倉城跡に迫らうとする。
47			参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中九／『福岡県全 教郡誌』P105			長州兵、一軒屋砲台を奪う。
48			参考	慶応2年8月17日		豊国戰記 第十九／『福岡県全教郡 誌』P103			小笠原軍、新町の東、兩山上に2砲台を設け、守垣の北側諱森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町頭と祇園社頭)、高野(2ヶ所)、南房(2ヶ所)、今村等の山上に砲台を起こし、小倉城跡に迫らうとする。
49			参考	慶応2年8月29日		小倉藩政時代記 内山圓治記録／『福 岡県全教郡誌』P222			青柳彦十郎は、高野村の東北端蓑屋の西高地に台場を築き、守る。
50			参考	慶応2年9月17日		豊国戰記 第十三／『福岡県全教郡 誌』P139			青柳彦十郎、高野、祇園町に4ヶ所の砲台を築く。
51			(1)	慶応2年10月4日		修訂防長回天史 五中九、丙寅之御麥 動鉢本陣御後備大砲打方並附属小鎗隊 戦争明細方／『福岡県全教郡誌』 P105、233			長州勢、企救郡巧綱蛭子山に攻め寄せる。徳力嵐山に掛ける陣籬を合図に、秋羽山より津田岡之丞、数衆の大砲を打ち出し、長州勢、立石原に退く。蒲生、高野口には青柳彦十郎の隊が台場を固める。
52			参考	慶応2年9月12日		豊国戰記 第十四／『福岡県全教郡 誌』P151			長州兵、高野、祇園町砲台を拔き、高野、祇園町砲台を焼く。
53			参考	慶応2年10月7日		豊国戰記 第十七／『小倉市誌 補道』P651、『福岡県全教郡誌』P194			小笠原軍、吉兼・金山・辻藏の台場を退却する。
54			参考	慶応2年10月7日		修訂防長回天史 五中九／『小倉市誌 補道』P636、『福岡県全教郡誌』P109			長州藩の堅田・八幡二小隊、稲荷峠の台場を破る。

No.	名稱	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・探尋・出典	差出	宛先
46	祇園町砲台	北九州市小倉南区長尾		慶応2年8月15日 参考		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企救部誌』P103		内谷
47	高野谷山西ノ尾椎木山台場	北九州市小倉南区長尾		慶応2年8月17日 参考		小倉原軍、細屋原の北、新町の東、西山上に2砲台を設け、守垣の北瓶筋森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町頭（祇園町頭と祇園社頭）、高野（2ヶ所）、南方（一軒屋の上、岩鼻の上）、蒲生（2ヶ所）、今村等の山により砲台を起こし、小倉城跡に迫るうとする。		
48	高野谷山台場	北九州市小倉南区長尾		慶応2年8月29日 参考		小倉藩政時代記 内山圓治記録／「福岡県企救部誌」P222		
49	五反田山台場	北九州市小倉南区長尾分		慶応2年10月4日 参考		小倉藩政時代記 第十三／『福岡県企救部誌』P139		
50	池尻山台場	北九州市小倉南区長尾分		慶応2年10月5日 参考		修訂防長回天史 五中九、深谷隊慶心二軍陣中日志、丙寅、御姿動顎本陣御後備大砲打方並附属小銃隊戰明細方／『福岡県企救部誌』P105, 204, 233		
51	中山砲台	北九州市小倉南区志井・德力		慶応2年10月5日 参考		豊国戦記 第十七／『福岡県企救部誌』P187		
52	秋葉山砲台	北九州市小倉南区德力		慶応2年10月5日 参考		豊国戦記 第十七／『福岡県企救部誌』P187		
53	徳力台場	北九州市小倉南区德力		慶応2年8月15日 参考		豊国戦記 第十七／『福岡県企救部誌』P187		
54	嵐山台場	北九州市小倉南区德力		慶応2年8月17日 参考		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企救部誌』P103		内谷
55	草場実本台場	北九州市小倉南区德力		慶応2年9月2日 参考		小倉原軍、細屋原の北、新町の東、西山上に2砲台を設け、守垣の北瓶筋森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町頭（祇園町頭と祇園社頭）、高野（2ヶ所）、南方（一軒屋の上、岩鼻の上）、蒲生（2ヶ所）、今村等の山により砲台を起こし、小倉城跡に迫るうとする。		
						松本藤三郎の旗下は、長尾村に陣営を進め、祇園町祇園の森北側大庄屋受宅地内の築山を台場として警備する。		
						青柳彦十郎、高野、祇園町に4ヶ所の砲台を築く。		
						長州兵、高野、祇園町砲台を抜き、高野、祇園町村を焼く。		
						島村志豆摩、種波新兵衛、中村武雄、片村武雄、片村友吉に10余人を付けて、高野谷山西ノ尾椎木山の中に屋を積み立て、台場を築かせる。長州勢の築屋十郎隊、攻めかかり、小食勢、引き退く。		
						島村志豆摩、古谷半三郎、豊田幾太郎に、金光寺原、池尻山に台場を築かせる。長州勢の攻撃により、退去する。		
						島村志豆摩、隊士八部民右衛門、中島勇三郎に農兵10余人を付けて、五反田山に台場を築かせる。		
						島村志豆摩、古谷半三郎、豊田幾太郎に、金光寺原、池尻山に台場を築かせる。長州勢の攻撃により、退去する。		
						島村志豆摩、古谷半三郎、金光寺原、池尻山に台場を築かせる。長州勢の攻撃により、退去する。		
						島村志豆摩、古谷半三郎が、中山砲台と相応ずる。		
						徳力村と志井村の間に小笠原軍の中山砲台あり。志井妙見山砲台を築く。		
						長府三吉内蔵之介一手が、中山砲台を攻め、陥す。志井妙見山砲台にせまる。		
						高田重右衛門等、中山台場を守るが、長州勢に襲われ、落ち延びる。		
						妙真寺の上の砲台の北に小笠原軍の秋葉山砲台あり。		
						大庭隆茂於吉は、徳力守屋原の北に砲台を築き、長崎で新たに買い入れた新式のレーキル砲を据え付け、守る。		
						津田岡之系、徳力秋羽山に登り、津田岡の系の台場を巡視する。		
						小笠原近江守貞正、徳力秋羽山に登り、秋葉原に火をつけ、秋葉砲台を拠り、徳力に迫る。徳力に侵入した鶴城隊、白砲で秋葉砲台を下ろし、隣接する。		
						長府熱、須理山に登り、東本台場を眼下に見下ろし、小鎌牌を浴びせる。深谷小太郎、萩尾、美本の2台場を推し、秋葉山に引き退く。		
						松本熊太郎の一隊は、陣営を徳力村ノ内字飯屋原に進め、同所良切り松に砲台を築き、木砲數門を据え、警固する。		
						深谷小太郎、徳力、嵐山、草場実本の三ヶ所に台場を作り、農民84人を籠め置く。		
						徳力村に築いた台場を深谷が巡回する。		
						長州勢、企救郡河鍋姓子山に攻め寄せる。徳力嵐山に掛ける陣営を合図に、秋羽山より津田岡の大砲を打ち出し、長州勢、立石原に退く。深谷小太郎の隊、徳力、朝原の台場を固める。		
						深谷小太郎、徳力村にあって、藁を集めて台場を作る。		
						徳力、草場の2ヶ所には、小倉勢、駿毛して地雷火を埋める。長州勢、破竹の勢いをもつて徳力、萩尾の台場を攻め破る。		
						島谷小太郎、徳力、嵐山、草場実本の3ヶ所に台場を作り、農民84人を籠め置く。		
						長州勢、企救郡河鍋姓子山に駆け寄せる。徳力嵐山に掛ける陣営を合図に、秋羽山より津田岡に退く。		
						徳力嵐山に掛けた合団の陣営を鳴らし、秋羽山の大砲を発射する。		
						深谷小太郎、徳力、嵐山、草場実本の3ヶ所に台場を作り、農民84人を籠め置く。		
						長州勢、須理山に登り、実本台場を眼下に見下ろし、小鎌牌を浴びせる。深谷小太郎、萩尾、萩尾、実本の2台場を捨て、秋葉山に引き退く。		

No.	名称	所在地	技番	年月日	表題	史料群名・採録・出典	差出	宛先	内容	
56	萩尾台場	北九州市 小倉南区 徳力・長尾	参考	慶応2年10月5日		豊国戦記 第十七／『福岡県企教郡誌』P185			德力、草場の2ヶ所には、小倉勢、駐屯して地雷火を埋める。長州勢、破竹の勢いをもって徳力、萩尾の台場を攻め破る。	
57	塙部山上台場	北九州市 小倉南区 徳力	参考	慶応2年10月5日					塙部山上台場を盾に取り、小倉勢、少しも動かず奮戦したが、石田、隠蓑、堀尾、中山等の味方が敗走し、志井の方に退く。	
58	守垣北面砲台 訪森野軒	北九州市 小倉南区 守垣	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企教郡誌』P103			小笠原軍、鉢屋原の北、新町の東、西山上に2砲台を設け、守垣の北脈筋森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町（祇園社頭と祇園社頭）・高野（2ヶ所）、南山上の上、岩鼻（2ヶ所）、今村等の山により砲台を起こし、小倉城跡に迫ろうとする。	
59	松尾山砲台	北九州市 小倉南区 守垣か、 石田町	参考	慶応2年8月17日		小倉政時代記 内山直治記録／『福岡県企教郡誌』第十三／『福岡県企教郡誌』P222			長州兵、北方駿町出明より、守垣台場を攻撃し、深谷隊、拒守する。19日、長州兵10余人、守垣村カラキリ松台場へ打ち入り、深谷隊、戦い、敗走させる。23日、守垣村カラキリ松台場に築く。	
60	石田砲台	北九州市 小倉南区 参考	慶応2年9月5日	(1)	慶応2年9月17日	修訂防長回天史 五中九、深谷隊慶応二寅陣中日誌／『福岡県企教郡誌』P202			長州の蒲原の兵と、深谷隊の小倉兵が戦い、童兵隊の援軍により、小倉兵、砲台を捨て退く。深谷隊、守垣台場により、長州兵と戦うが、長州兵が多勢となり、防ぎきれず、徳力村に遁走する。	
61	松尾山砲台	北九州市 小倉南区 石田町	参考	慶応2年9月20日	(2)	慶応2年10月4日	修訂防長回天史 五中九／『福岡県企教郡誌』P139			小笠原近江守貞正、深谷小太郎が籠る守垣台場を巡視する。
62	紺屋原北山上砲台	北九州市 小倉南区 石田町	参考	慶応2年9月5日		豊国戦記 第十三／『福岡県企教郡誌』P143			松本熊太郎、高原山に台場を構える。	
63	隠蓑砲台	北九州市 小倉南区 参考	慶応2年8月29日			修訂防長回天史 五中八／『福岡県企教郡誌』P101			小倉兵、石田砲台より発砲する。	
64	徳力後山砲台	北九州市 小倉南区 徳吉	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企教郡誌』P103			小笠原軍、妙見山、鳥食山、隠蓑、松尾山等の数所に砲台を置き、高津尾の後方に備える。	
65	吉兼砲台	北九州市 小倉南区 吉兼	参考	慶応2年10月4日		修訂防長回天史 五中九／『福岡県企教郡誌』P106			小倉兵、松尾山、その左隠蓑、その南河堤の二ヶ所の砲台に退き、拒戦する。	
66	志井妙見山砲台	北九州市 小倉南区 志井	参考	慶応2年10月5日		豊国戦記 第十六／『福岡県企教郡誌』P180			洪田見新、高橋唯之丞、圓の松の間に3ヶ所の台場を築き、隊を引きまとめ、隠蓑へ退却する。	
67	紺屋原北山上砲台	北九州市 小倉南区 石田町	参考	慶応2年10月5日		豊国戦記 第十六／『福岡県企教郡誌』P183～4			石田松尾山台場には、二木抜馬の隊が籠り居たが、長州勢に攻められ、鳥越山に退く。長州勢、松尾台場を棄つる。	
68	徳力後山砲台	北九州市 小倉南区 参考	慶応2年8月15日			修訂防長回天史 五中八、丙寅之御參勤御後備大砲方並附屬小銃隊戰争明細方／『福岡県企教郡誌』P103、228			小笠原軍、鉢屋原の北、新町の東、西山上に2砲台を設け、守垣の北脈筋森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町（祇園社頭と祇園社頭）・高野（2ヶ所）、南山上の上、岩鼻（2ヶ所）、今村等の山により砲台を起こし、小倉城跡に迫ろうとする。	
69	吉兼砲台	北九州市 小倉南区 吉兼	参考	慶応2年9月17日		豊国戦記 第十四／『福岡県企教郡誌』P155～6			長州勢、企数郡朽網蛭子山に改め奉る。德力嵐山に掛けた陣籠を合団に、秋羽山長より津田頃の義教翁の大砲を打ち出し、長州勢、立原に退く。澤谷小太郎の隊、徳力、鉢屋原の台場を固める。	
70	徳力後山砲台	北九州市 小倉南区 吉兼	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中九／『福岡県企教郡誌』P103			小笠原軍、妙見山、鳥食山、隠蓑、松尾山等の数所に砲台を置き、高津尾の後方に備える。	
71	吉兼砲台	北九州市 小倉南区 吉兼	参考	慶応2年10月7日		修訂防長回天史 五中九／『福岡県企教郡誌』P109			長州譜の鴻城三番、五番、徳力後山に砲台を築こうとする。	
72	徳力後山砲台	北九州市 小倉南区 吉兼	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企教郡誌』P103			北高津尾の北の台の東南角本道に面し、大丸を右に望み、吉兼村を左に望み、一砲台あり。その北五六丁に吉兼砲台あり。小笠原軍、鉢屋原の北、新屋原の北、筑町の東、筑町の東、兩山上に2砲台を設け、守垣の北脈筋森に野戦砲台を設け、吉兼、祇園町（祇園社頭と祇園社頭）・高野（2ヶ所）、南山上の上、岩鼻（2ヶ所）、蒲生（2ヶ所）、今村等の山により砲台を起こし、小倉城跡に迫ろうとする。	
73	志井妙見山砲台	北九州市 小倉南区 志井	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中九／『小倉市誌補遺』P636、『福岡県企教郡誌』P109			長州譜の八幡・堅田五番、野添山の砲台を破り、吉兼砲台を攻めようとする。長州譜の八幡・堅田五番、野添山の砲台を逼迫する。	
74	徳力後山砲台	北九州市 小倉南区 吉兼	参考	慶応2年10月7日		豊国戦記 第十七／『小倉市誌補道』P65、『福岡県企教郡誌』P194			徳力村と志井村の間に小笠原軍の中山砲台あり。志井妙見山砲台と相応する。	
75	吉兼砲台	北九州市 小倉南区 吉兼	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中八／『福岡県企教郡誌』P103			奇兵隊、妙見山砲台を攻め、小倉兵、支えきれず砲台から走る。奇兵隊、妙見山砲台に入る。	
76	志井妙見山砲台	北九州市 小倉南区 志井	参考	慶応2年10月5日		修訂防長回天史 五中九、豊国戦記／『福岡県企教郡誌』P108、180				

No.	名称	所在地	枚番	年月日	表題	史料群名・標録・出典	差出	宛先	内容
67	志井村字北九州市小倉南区志井場	参考	慶応2年8月1日		小倉藩改時代記 内山國治記録／『福岡県企教部誌』P222				8月1日から10余日後、牧野弥次石籠門、島村士大将の指揮により、金辺の陣営を差し、志井村茶屋並びに字市ヶ原に陣営を移す。字市ヶ原北端の高地に台場を築き、守る。
68	高尾山台場	参考	慶応2年10月5日		豊国戦記 第十七／『福岡県企教部誌』P185				
69	堀越台場	参考	慶応2年9月5日		豊国戦記 第十三／『福岡県企教部誌』P143				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
70	十三塚場	参考	慶応2年10月5日		豊国戦記 第十七／『福岡県企教部誌』P184				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
71	合馬台場	参考	慶応2年9月5日		豊国戦記 第十三／『福岡県企教部誌』P143				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
72	鳥越台場	参考	慶応2年9月9日		豊国戦記 第十七／『福岡県企教部誌』P184				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
73	辰尾村砲台	参考	慶応2年10月5日		修訂防長回天史 五中九／『小倉市誌補遺』P636、『福岡県企教部誌』P109				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
74	丸山台場	参考	慶応2年9月1日		豊国戦記 第十三／『福岡県企教部誌』P143				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
75	岡村砲台	参考	慶応2年9月17日		深谷隊慶忠二寅軍中日誌／『福岡県企教部誌』P200				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
76	高津尾砲台	参考	慶応2年10月7日		修訂防長回天史 五中九／『小倉市誌補遺』P636				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
77	大丸砲台	参考	慶応2年10月13日		豊国戦記 第十七／『福岡県企教部誌』P221～2				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
78	茅生砲台	参考	慶応2年8月1日	(1)	修訂防長回天史 五中九／『小倉市誌補遺』P636				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
79	高津尾砲台	参考	慶応2年8月15日		豊国戦記 第十七／『福岡県企教部誌』P222				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。
80	白旗嶺砲台	参考	慶応2年8月15日		修訂防長回天史 五中九／『小倉市誌補遺』P637				堀越台場には、丸田劉貞、伊藤七五三之助等、所々に隊を分けて防ぐ。

No.	名称	所在地	表番	年月日	表題	中間群名・探録・出典	差出	宛先	内容
4	住吉科遠見番所	久留米市安武町住吉	参考 寛文年間	寛文9～貞享1年	久留米藩頭古図	『福岡県史資料3』付図 「米府紀事略」3／『久留米市史 第9卷 資料編』近世II P186			「遠見番所」の記述あり。
			参考 天和開		分限帳	『久留米市史 第2卷 P855			久留米藩土衣笠九五郎、「住吉御番」とみえる。
			参考 元禄14年3月		有馬中務大輔領分覚書	『福岡県史資料3』付図 「米府紀事略」5／『久留米市史 第9卷 資料編』近世II P166			「唐船遠見番所」と記す。
			参考 天明6年頃		筑後図	『福岡県史資料9』P600、『天川市誌』P355			「遠見番所」として「住吉」が挙げられ、番人は2人とみえる。
5	城島村遠見番所	久留米市城島町城島内役手	参考 寛政1年8月		筑後久留米領御尋答書	『天川市誌』P328			番所は筑後川通船と遠見を兼ねる。肥前国境内に位置し、土なびに足軽5人を当てる。
			参考 天保3年		分限帳	『福岡県史資料3』付図 「久留米市史 第2卷 P855			5代藩主有馬頼貢、久留米藩士山口新左衛門に支配させる。城島下番所に先鋒を居させろ。
			参考 天和年間	寛文9～貞享1年	有馬中務大輔領分覚書	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第2卷 P855			「遠見番所」の記述あり。
			参考 元禄14年3月		筑後図	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第9卷 資料編』近世II P166			「唐船遠見番所」と記す。
			参考 天明6年頃			『大川市誌』P328			「遠見番所」の記述あり。
6	鏡ヶ江村	大川市鏡ヶ江	参考 寛文3年		分限帳	『福岡県史資料3』付図 「久留米市史 第2卷 P855			「唐舟遠見番」として「城島」が挙げられ、番人は2人とみえる。
			参考 天和年間	寛文9～貞享1年	有馬中務大輔領分覚書	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第2卷 P855			5代藩主有馬頼貢、久留米藩士山口新左衛門に支配させる。鏡ヶ江下番所に先鋒を居させろ。
			参考 天和年間	元禄14年3月	筑後図	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第9卷 資料編』近世II P166			「遠見番所」の記述あり。
			参考 天明6年頃			『大川市誌』P328			「唐舟遠見番所」として「鏡ヶ江」が記述される。
7	向島村遠見番所	大川市向島	参考 寛文3年		分限帳	『福岡県史資料3』付図 「久留米藩頭古図			5代藩主有馬頼貢、久留米藩士山口新左衛門と西部の2か所に番所が置かれた。
			参考 天和年間	寛文9～貞享1年	有馬中務大輔領分覚書	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第2卷 P855			筑後川に沿つて浦町・木町が並列し、東部と西部の2か所に番所が置かれた。
			参考 天和年間	元禄14年3月	筑後図	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第9卷 資料編』近世II P166			久留米藩士山口新左衛門・堀田・城島遠見番所を守護する。
			参考 天明6年頃			『大川市誌』P328			久留米藩士山口新左衛門、「瘦津御番」とみえる。
			参考 文政2年		分限帳	『福岡県史資料3』付図 「久留米市史 第2卷 P855			「遠見番所」の記述あり。
			参考 大川市鏡ヶ江	寛文3年	分限帳	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第2卷 P855			「唐船遠見番所」と記す。
			参考 天和年間	寛文6年	分限帳	鶴久二郎文書／『福岡県の地名』P1009 『久留米市所蔵文書』／『福岡県の地名』P1011			久留米衆（山田・安・小川・伊吹）により川筋の見分として「復津御番所」の見分が行われる。
			参考 寛文年間		分限帳	『福岡県史資料3』付図 「久留米市史 第2卷 P855			「遠見番所」の記述あり。
			参考 天和年間	寛文9～貞享1年	有馬中務大輔領分覚書	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第2卷 P855			「唐船遠見番」として「極津」が挙げられ、番人は2人とみえる。
			参考 天和年間	元禄7年3月1日	続古代日記書括（仮題）	『福岡県史資料7』付図 「福岡県史資料3』付図 「久留米市史 第2卷 P855			番所は筑後川通船と遠見を兼ねる。肥前国ならびに柳川領に位置し、物頭組足堅十人を当てる。出番所として神之沖所があり、本番所から足堅を差している。
			参考 元禄14年3月		筑後図	『福岡県史資料7』付図 「久留米市史 第9卷 資料編』近世II P166			「遠見番所」として「小保」の名がみえる。
			参考 天明6年頃			『大川市誌』P328			新たに久留米藩砲台を傍地の大里に築造する。
			参考 天明6年頃	寛政1年8月	筑後久留米領御尋答書	『福岡県史資料9』P600、『大川市誌』P325			異国船を見るに從つて、号砲を運次に3回打発することが通知されていた。
			参考 元治1年8月			『福岡県史資料3』付図 「行橋市史 中巻』P197			助使正親町公義卿、16日に田ノ浦台場、18日に引島弟子松台場・大里久留米屋敷ノ台場を巡視する。
			参考 天明6年頃	元治1年5月15日～18日		『柳川市史』P212～3			「遠見番所」として「小保」の名がみえる。
									「遠見番所」の記述あり。
									「遠見番所」として「新田」の名がみえる。※宮永新田番所の可能性もあり。
									「津口番所」として「三浦新田」とみえ、外國船打弘いたところ。
									「津口番所」として「三浦新田・玉堀・玉堀・铁砲等を備置していた」とある。

No.	名称	所在地	参考	年月日	表題	史料群名・探録・出典	御領中諸事覚書	御領中諸事覚書	差出	宛先	内容
3	閑村遠見 番所	柳川市閑 村	参考 元禄5年4月 参考 元禄14年3月	御領中諸事覚書	「柳川市史」史料編Ⅰ地誌』P298 『福岡県史資料7』付図 筑後図	「柳川市史」史料編Ⅰ地誌』P298 『福岡県史資料7』付図 筑後図	「閑村番所入江」、十五日潮には二十石船まで出入りできる。	「閑村番所入江」、十五日潮には二十石船まで出入りできる。			
4	沖端宇治 遠見番所 (沖端番 所・宇治 番所)	柳川市穴 留町	参考 元禄14年3月 参考 文政9年10月以降 参考 寛政1年8月 参考	柳河明正圖会 沖端宇治番所絵図 集書	「柳川市史」史料編Ⅰ地誌』P292 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311	「柳川市史」史料編Ⅰ地誌』P292 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311	「遠見番所」として「沖端」の名がみえる。 「津口番所」として「沖端」とみえ、外国船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述があり。	「遠見番所」の記述があり。			
5	宮永新田 番所(新 田番所)	柳川市仙 町	参考 文政9年10月以降 参考 寛政3年2月 参考	柳河藩政誌略 新田御番所絵図 集書	『柳川市史』史料編Ⅰ地誌』P286・288 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『福岡県史資料8』P510	『柳川市史』史料編Ⅰ地誌』P286・288 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『福岡県史資料8』P510	「津口番所」として「新田」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」として「新田」の名がみえる。※三瀬(一本)新田番所の可能性もあり。 「津口番所」として「宮永新田」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。	「津口番所」として「新田」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」として「新田」の名がみえる。※三瀬(一本)新田番所の可能性もあり。			
6	塩塚遠見 番所	柳川市大 和町塩塚	参考 元禄14年3月 参考 寛政1年8月 参考	柳河藩政誌略 塩塚番所絵図 集書	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『福岡県史資料8』P510	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『福岡県史資料8』P510	「遠見番所」として「塩塚」の名がみえる。 「遠見番所」の記述あり。	「遠見番所」として「塩塚」の名がみえる。			
7	中島(中 島)遠見 番所	みやま市 高田町中島	参考 元禄14年3月 参考 寛政3年2月 参考	柳河藩政誌略 中嶋御番所絵図 集書	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『福岡県史資料8』P510	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』地図編一』P6 『福岡県史資料8』P510	「遠見番所」として「中島」の名がみえる。 「津口番所」として「中島德永」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。	「遠見番所」として「中島」の名がみえる。 「津口番所」として「中島德永」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。			
8	黒崎(村) 番所	大牟田市 岬	参考 寛保年間 参考 元禄14年3月 参考 寛保年間 参考	柳河藩政誌略 御領中諸事覚書 柳河藩頭地図 集書	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	「遠見番所」として「黒崎」の名がみえる。 「津口番所」として「黒崎」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。	「遠見番所」として「黒崎」の名がみえる。 「津口番所」として「黒崎」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。			
9	手鍊(村)番 所	大牟田市 番	参考 元禄5年4月 参考 元禄14年3月 参考 寛保年間 参考	柳河藩政誌略 御領中諸事覚書 柳河藩頭地図 集書	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	「遠見番所」として「手鍊」の名がみえる。 「津口番所」として「手鍊」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。	「遠見番所」として「手鍊」の名がみえる。 「津口番所」として「手鍊」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。			
10	横洲(村)番 所	大牟田市 恵比須町	参考 寽保年間 参考 元禄5年4月 参考 寽保年間 参考	柳河藩政誌略 御領中諸事覚書 柳河藩頭地図 集書	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	「遠見番所」として「横洲」の名がみえる。 「津口番所」として「横洲」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」として「横洲」の名がみえる。	「遠見番所」として「横洲」の名がみえる。 「津口番所」として「横洲」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」として「横洲」の名がみえる。			
11	(下二部)番 所	大牟田市 天領町・ 白金町・ 山下町	参考 寽保年間 参考 元禄14年3月 参考	柳河藩政誌略 柳河藩頭地図 集書	『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	『福岡県史資料7』付図 『柳川市史』史料編Ⅰ地 誌』P311 『福岡県史資料8』P510	「遠見番所」として「横洲」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「津口番所」として「横洲」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。	「遠見番所」として「横洲」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「津口番所」として「横洲」とみえ、外國船打払いのために百目の鏡を置くべきこと。 「遠見番所」の記述あり。			
〔烽火台〕											
1	甲孫山烽 火台	みやま市 山川町甲 山宇佐野	参考 文化6年1月20日	表題	史料群名・探録・出典	郡役所	内抜書類附／『大和町史 通史編 上巻』P577	差出	宛先	内容	
											烽火台の試し焚きを行う。

索引

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
あ						
アイノツル城	あいのつるじょう	上妻郡	八女市矢部村北矢部	133	20	124
赤司城	あかじじょう	御井郡	久留米市北野町赤司	K2	26	164
明星岳城	あかぼしだけじょう	御井郡	久留米市高良内町	20	12	—
足利尊氏陣	あしかがたかうじじん	下妻郡	筑後市鶴田	D14	28	—
阿地坂城	あじさかじょう		→西鰐坂城(にしあじさかじょう)			
甘木河内守城	あまぎかわちのかみじょう		→鬼ノ口城(おにのくちじょう)			
甘木河内守館	あまぎかわちのかみやかた		→馬場館(ばばやかた)			
甘木城	あまぎじょう		→鬼ノ口城(おにのくちじょう)			
甘木城	あまぎじょう	三池郡	大牟田市甘木	228	26	—
尼ノ長者居館	あまのちょうじやきょかん		→煎熊館(いりくまやかた)			
荒木近藤氏館	あらきこんどうしやかた		→荒木館(あらきやかた)			
荒木館	あらきやかた	三潴郡	久留米市荒木町荒木	29	14	—
飯田館	いいだやかた	山本郡	久留米市善導寺町飯田	64	16	84
生駒野城	いごまのじょう	上妻郡	八女市上陽町下横山	146	20	131
石井要害	いしいようがい	生葉郡	うきは市か	F3	30	—
石垣城	いしかきじょう		→山ノ中城(やまのなかじょう)			
石橋氏屋敷	いしばししやしき	三潴郡	久留米市三潴町草場	D5	28	—
一條館	いちじょうやかた	上妻郡	八女郡広川町一條・筑後市一条	184	24	—
一之瀬館	いちのせやかた	生葉郡	うきは市浮羽町朝田	112	18	—
稻員城	いなかずじょう		→稻員館(いなかずやかた)			
稻員館	いなかずやかた	御井郡	久留米市北野町稻数	12	12	—
稻吉元矢次遺跡	いなよしもとやつぎいせき	御原郡	小郡市稻吉	R4	28	185
犬尾城	いぬおじじょう	上妻郡	八女市山内	164	22	140
犬塚城	いぬづかじょう	三潴郡	久留米市三潴町玉満	37	14	80
井上城	いのうえじょう	生葉郡	うきは市浮羽町流川	107	18	113
井ノ上西城	いのうえにしじょう		→西ノ城(にしのしろ)(うきは市浮羽町流川))			
井上館	いのうえやかた	生葉郡	うきは市浮羽町清瀬	110	18	115
今古賀城	いまこがじょう	山門郡	柳川市三橋町今古賀	215	26	—
今福城	いまぶくじょう	三池郡	みやま市高田町今福	220	26	158
今山城	いまやまじょう		→三池山城(みいけやまじょう)			
今山城	いまやまじょう	三池郡	みやま市高田町	—	30	—
今山陣屋	いまやまじんや		→三池陣屋(みいけじんや)			
今山嶽城	いまやまだけじょう		→三池山城(みいけやまじょう)			
妹川城	いもかわじょう		→平家城(へいけじょう)(うきは市浮羽町妹川))			
妹川平家城	いもかわへいけじょう		→平家城(へいけじょう)(うきは市浮羽町妹川))			
妹川万貫寺城	いもかわまんがんじじょう		→満願寺城(まんがんじじょう)			
煎熊館	いりくまやかた	生葉郡	うきは市浮羽町三春・山北	116	20	—
入隈館	いりくまやかた		→煎熊館(いりくまやかた)			
磐井城	いわいじょう	御井郡	久留米市御井町・山川町	22	12	—
岩井城	いわいじょう		→磐井城(いわいじょう)			
兔城	うさぎじょう	上妻郡	八女市黒木町土窪	145	20	131
内城城	うちじょうじょう	生葉郡	八女市星野村	130	20	—
内野城	うちのじょう	三潴郡	久留米市大善寺町	—	30	—
内山城	うちやまじょう	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	83	18	94
内山城	うちやまじょう		→内山館(うちやまやかた)			
内山城	うちやまじょう	三池郡	大牟田市吉野	223	26	159
内山館	うちやまやかた	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	82	18	93
姥ヶ城	うばがじょう	竹野郡	久留米市田主丸町地徳	80	16	—
浦館	うらやかた	生葉郡	八女市星野村	129	20	—
江上城	えがみじょう		→西江上城(にしえがみじょう)(久留米市城島町江上本))			
			→東江上城(ひがしえがみじょう)(久留米市城島町江上))			
江後前川内城	えごまえかわちじょう		→前川内城(まえかわちじょう)			
江崎城	えざきじょう	山門郡	柳川市三橋町垂見	216	26	—
江島城	えじまじょう	三潴郡	久留米市江島	—	30	—

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
江浦城	えのうらじょう	三池郡	みやま市高田町江浦	K11	28	180
榎津城	えのきづじょう	三瀬郡	大川市榎津	K5	26	169
江村之城	えむらのしろ	→江浦城 (えのうらじょう)				
恵利砦	えりとりで	竹野郡	久留米市田主丸町恵利	72	16	—
延寿寺城	えんじゅじじょう	→福丸城 (ふくまるじょう)				
延寿寺館	えんじゅじやかた	→福丸館 (ふくまるやかた)				
大石城	おおいしじょう	生葉郡	うきは市浮羽町高見	113	18	—
大石館	おおいしやかた	三瀬郡	久留米市大石町	27	14	—
大板井城	おおいたいじょう	御原郡	小郡市大板井	4	12	—
大岩空堀城	おおいわからぱりじょう	→地下名城 (じげなじょう)				
大奥城	おおおくじょう	三池郡	大牟田市宮崎	224	26	—
大木城	おおきじょう	山門郡	みやま市瀬高町大廣園	202	24	—
大隈城	おおくまじょう	三瀬郡	久留米市梅満町	30	14	—
大瀬城	おおぶちじょう	→熊野堂城 (くまのどうじょう)				
大保横枕遺跡	おおほよこまくらいせき	御原郡	小郡市大保	R3	28	185
大村居館	おおむらきょかん	→井上館 (いのうえやかた)				
大藪居館	おおやぶきょかん	→大藪砦 (おおやぶとりで)				
大藪砦	おおやぶとりで	三瀬郡	三瀬郡大木町大藪	54	16	—
小川館	おがわやかた	竹野郡	久留米市田主丸町船越	76	16	—
小郡館	おごおりやかた	→向築地長者館 (むかいついじちょうじややかた)				
小田城	おだじょう	下妻郡	みやま市瀬高町小田	198	24	146
乙隈城	おとぐまじょう	御原郡	小郡市乙隈	1	12	—
乙隈館	おとぐまやかた	→乙隈城 (おとぐまじょう)				
荊津館	おどろつやかた	三瀬郡	久留米市宮ノ陣町荊津	32	14	—
鬼城	おにじょう	→鬼城 (うさぎじょう)				
鬼ノ口城	おにのくちじょう	上妻郡	八女市広川町水原	174	22	142
か						
海津城	かいづじょう	三瀬郡	久留米市安武町大島	31	14	78
搔上城	かきあげじょう	→山崎城 (やまさきじょう)				
兼松城	かねまつじょう	上妻郡	八女市立花町兼松	159	22	137
蒲池城	かまちじょう	三瀬郡	柳川市東蒲池	61	16	—
鎌池城	かまちじょう	→蒲池城 (かまちじょう)				
蒲原城	かまはらじょう	上妻郡	八女市蒲原	172	22	—
蒲船津城	かまふなつじょう	山門郡	柳川市三橋町蒲船津	214	26	155
上内高頭遺跡	かみうちたかがしらいせき	三池郡	大牟田市上内	R23	30	196
上笠尾岳城	かみささおだけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町竹野	—	30	—
上白川遺跡	かみしらかわいせき	三池郡	大牟田市上白川町2丁目	R25	30	198
上高橋城	かみたかはしじょう	御原郡	三井郡大刀洗町上高橋	7	12	—
上ノ城	かみのしろ	→発心城 (ほっしんじょう)				
上久末城	かみひさすえじょう	→久末城 (ひさすえじょう)				
萱津城	かやつじょう	山門郡	みやま市山川町竹飯	205	24	—
烏山城	からすやまじょう	→東山城 (ひがしやまじょう (うきは市))				
川崎式部館	かわさきしきぶやかた	上妻郡	八女郡広川町新代	180	24	—
川崎氏館	かわさきしやかた	上妻郡	八女市豊福	169	22	—
川崎城	かわさきじょう	→犬尾城 (いぬおじょう)				
川崎屋敷	かわさきやしき	→川崎氏館 (かわさきしやかた)				
川瀬城	かわせじょう	上妻郡	八女郡広川町広川	181	24	—
川瀬館	かわせやかた	上妻郡	八女郡広川町新代	182	24	—
觀音寺山城	かんのんじやまじょう	竹野郡	久留米市田主丸町石垣	—	30	—
冠城	かんむりじょう	→平家城 (へいけじょう (うきは市吉井町鷹取 (No.93)))				
冠平家城	かんむりへいけじょう	→平家城 (へいけじょう (うきは市吉井町鷹取 (No.93)))				
岸山城	きしやまじょう	生葉郡	うきは市浮羽町山北	117	20	—
北関城	きたのせきじょう	山門郡	みやま市山川町北関	209	26	—
北ノ屋敷遺跡	きたのやしきいせき	三瀬郡	久留米市城島町江上本	R15	30	192
木室城	きむろじょう	三瀬郡	大川市木室	57	16	—
清水城	きよみずじょう	生葉郡	うきは市吉井町富永	96	18	—
久恵館	くえやかた	下妻郡	筑後市久恵	187	24	—
草野別館	くさのべっかん	三瀬郡	三瀬郡大木町福土か	52	14	—

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
草野館	くさのやかた		→吉野尾館 (よしのおやかた)			
草場城	くさばじょう		→草場館 (くさばやかた)			
草場館	くさばやかた	御井郡	久留米市宮ノ陣町大杜	24	12	—
国武館	くにたけやかた	上妻郡	八女市国武	171	22	—
国見城	くにみじょう		→国見岳城 (くにみだけじょう)			
国見岳城	くにみだけじょう	上妻郡	八女市立花町北山	156	22	135
久保城	くぼじょう		→大石城 (おおいしじょう)			
久保山城	くぼやまじょう	上妻郡	八女市立花町か	154	22	—
神代館	くましろやかた	御井郡	久留米市山川町神代	13	12	70
隈城	くまじょう	三瀬郡	久留米市大善寺町夜明	33	14	—
隈城	くまじょう	竹野郡	久留米市田主丸町竹野	—	30	—
隈ノ上城	くまのうえじょう	生葉郡	うきは市浮羽町朝田	111	18	116
熊ノ川城	くまのかわじょう	上妻郡	八女市立花町上辺春	148	20	132
熊河城	くまのかわじょう		→熊ノ川城 (くまのかわじょう)			
熊野堂城	くまのどうじょう	上妻郡	八女市黒木町大淵	141	20	128
熊野屋敷遺跡	くまのやしきいせき	上妻郡	筑後市熊野	R18	30	194
鞍掛城	くらかけじょう	上妻郡	八女市立花町北山	157	22	—
栗原城	くりはらじょう	上妻郡	八女市矢部村矢部	135	20	—
久留米城	くるめじょう	御井郡	久留米市篠山町	K3	26	165
久留目城	くるめじょう		→久留米城 (くるめじょう)			
來自城	くるめじょう		→久留米城 (くるめじょう)			
黒木城	くろぎじょう		→猫尾城 (ねこおじょう)			
下林城	げばやしじょう	三瀬郡	大川市下林	56	16	—
甲条城	こうちゅうじょうじょう	御原郡	三井郡大刀洗町甲条	5	12	—
高野城	こうのじょう	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	84	18	95
河野城	こうのじょう		→高野城 (こうのじょう)			
古賀城	こがじょう	御井郡	久留米市宮ノ陣町八丁島	11	12	—
古賀城	こがじょう		→古賀館 (こがやかた (八女郡広川町新代))			
古賀館	こがやかた	上妻郡	八女郡広川町新代	179	24	—
古賀館	こがやかた		→五郎丸城 (ごろうまるじょう (久留米市北野町五郎丸))			
古賀前遺跡	こがんまえいせき	御井郡	久留米市本山1丁目	R11	30	190
小坂館	こさかやかた	生葉郡	うきは市浮羽町流川	109	18	—
小椎尾氏別館	こじおしへっかん	生葉郡	うきは市浮羽町小塩	121	20	—
小椎尾氏館	こじおしゃかた	生葉郡	うきは市浮羽町小塩	120	20	—
越生氏館	こじおしゃかた		→小椎尾氏館 (こじおしゃかた)			
小塙城	こじおじょう	生葉郡	うきは市浮羽町小塩	118	20	—
小城	こじょう		→谷山城 (たにやまじょう (うきは市吉井町福益))			
古城	こじょう		→谷山城 (たにやまじょう (うきは市吉井町福益))			
紅桃林城	ことばやしじょう	竹野郡	久留米市草野町紅桃林	F2	30	—
虎伏木城	こぶしきじょう	上妻郡	八女市矢部村北矢部	136	20	—
古寶殿城	こぼうでんじょう	御井郡	久留米市山川町	17	12	—
小丸城	こまるじょう	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	86	18	97
五郎丸城	ごろうまるじょう	御井郡	久留米市宮ノ陣町五郎丸	25	12	—
五郎丸城	ごろうまるじょう	御井郡	久留米市北野町五郎丸	—	30	—
權現岳城	ごんげんだけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町石垣	—	30	—
權現岳城	ごんげんだけじょう	上妻郡か	八女市か	F6	30	—
さ						
齋藤館	さいとうやかた	上妻郡	八女郡広川町一條	185	24	—
坂井城	さかいじょう		→大坂井城 (おおいたいじょう)			
酒井田城	さかいだじょう		→酒井田館 (さかいだやかた)			
酒井田館	さかいだやかた	上妻郡	八女市酒井田	162	22	—
酒見城	さけみじょう	三瀬郡	大川市酒見	58	16	82
笹尾岳城	ささおだけじょう		→下笹尾岳城 (しもささおだけじょう)			
			→中笹尾岳城 (なかささおだけじょう)			
			→上笹尾岳城 (かみささおだけじょう)			
			→小塙城 (こじおじょう)			
			→山下城 (やましたじょう)			
			→鷹尾城 (たかおじょう (八女市山内・大籠))			

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
篠原城	ささはらじょう		→久留米城（くるめじょう）			
笹原城	ささはらじょう		→久留米城（くるめじょう）			
笹渕館	ささぶちやかた	三潴郡	三潴郡大木町笹渕	D7	28	—
篠山城	ささやまじょう		→久留米城（くるめじょう）			
三ノ瀬城	さのせじょう	上妻郡	八女市立花町下辺春	160	22	138
佐留垣城	さるがきじょう	山門郡	柳川市大和町栄	219	26	—
算城	さんじょう		→東光寺城（とうこうじじょう）			
塩塚城	しおつかじょう	山門郡	柳川市大和町塩塚	218	26	156
重虎城	しげとらじょう	生葉郡	うきは市浮羽町妹川	101	18	—
地下名城	じげなじょう	上妻郡	八女市黒木町笠原	139	20	126
下見遺跡	したみいせき	御井郡	久留米市東合川町5丁目	R6	28	186
下青木城	しもあおきじょう	三潴郡	久留米市城島町下青木	42	14	—
下内城	しもうちじょう	三池郡	大牟田市岩本	226	26	—
下笛尾岳城	しもささおだけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町竹野	79	16	—
下高橋城	しもたかはし	御原郡	三井郡大刀洗町下高橋	6	12	—
下田城	しもだじょう	三潴郡	久留米市城島町下田	39	14	—
下田館	しもだやかた	三潴郡	久留米市城島町下田	38	14	—
下妻城	しもつまじょう		→下妻村營（しもつまむらえい）			
下妻村營	しもつまむらえい	下妻郡	筑後市下妻	D16	28	—
下ノ城	しものしろ		→發心城（ほっしんじじょう）			
下牟田館	しもむたやかた	上妻郡	筑後市井田	191	24	144
十籠館	じゅうごもりやかた	生葉郡	八女市星野村	127	20	—
城崎遺跡	じょうざきいせき	三潴郡	久留米市安武町安武本	R13	30	191
城氏城	じょうしじょう	竹野郡	久留米市田主丸町石垣	90	18	—
城島城	じょうじまじょう	三潴郡	久留米市城島町城島	K4	26	168
城島館	じょうじまやかた		→城島城（じょうじまじょう）			
城ノ内城	じょうのうちじょう	三潴郡	三潴郡大木町横溝	55	16	—
城ノ尾城	じょうのおじょう	上妻郡	八女郡広川町長延	176	22	—
城平山城	じょうでらやまじょう	上妻郡	八女市立花町白木	152	22	—
城前遺跡	じょうまえいせき	三池郡	みやま市高田町上楠田	R22	30	196
松門寺城	じょうもんじじょう		→平家城（へいけじじょう（久留米市田主丸町常盤（No.75）））			
松門寺館	じょうもんじやかた		→平家城（へいけじじょう（久留米市田主丸町常盤（No.75）））			
白石城	しらいしじょう	生葉郡	八女市星野村	126	20	123
白川遺跡	しらかわいせき	三池郡	大牟田市上白川町2丁目	R24	30	197
白木城	しらきじょう	上妻郡	八女市立花町白木	150	22	—
白口中村館	しらぐちなかむらやかた	三潴郡	久留米市荒木町白口	28	14	—
白口館	しらぐちやかた		→白口中村館（しらぐちなかむらやかた）			
白鳥城	しらとりじょう	山門郡	柳川市三橋町白鳥	211	26	152
白牧大岩屋名城	しらまきおおいわやなじょう	上妻郡	八女市黒木町笠原	138	20	—
城跡山城	しろあとやまじょう	上妻郡	八女市長野か	167	22	—
神道遺跡	じんどういせき	御井郡	久留米市御井旗崎1丁目	R9	30	189
陣内遺跡	じんないいせき	三池郡	みやま市高田町上楠田	R21	30	195
陣屋敷	じんやしき	三池郡	大牟田市田隈	D17	28	—
陣屋陣	じんやじん	御井郡	久留米市北野町陣屋	D2	28	—
杉ノ城	すぎのじょう	御井郡	久留米市御井町	16	12	74
菅館	すげやかた	竹野郡	うきは市吉井町鷹取	91	18	102
住厭城	すみあきじょう		→杉ノ城（すぎのじょう）			
諫訪平家城	すわへいけじじょう		→平家城（へいけじじょう（久留米市田主丸町殖木（No.78）））			
諫訪館	すわやかた	竹野郡	久留米市田主丸町殖木	77	16	—
瀬高城	せたかじょう	山門郡	みやま市瀬高町上庄	200	24	—
禪院城	ぜんいんじょう	下妻郡	みやま市瀬高町小田・廣瀬	197	24	145
仙頭屋敷	せんどうやしき	上妻郡	八女市立花町白木か	153	22	—
た						
大聖寺山城	だいしょうじやまじょう		→安山城（やすやまじょう）			
大将陣砦	たいしようじんとりで	三池郡	大牟田市天道町			
大間城	だいまじょう	三池郡	大牟田市三池	229	26	160
大間館	だいまやかた		→大間城（だいまじょう）			

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
高井岳城	たかいだけじょう		生葉郡 / 豊後國 うきは市浮羽町小塩・大分県日田市川下	119	20	118
高岩城	たかいわじょう	生葉郡	八女市星野村	125	20	122
鷹尾城	たかおじょう	上妻郡	八女市山内・大籠	165	22	141
鷹尾城	たかおじょう	山門郡	柳川市大和町鷹ノ尾	K8	28	174
高尾城	たかおじょう		→鷹尾城 (たかおじょう (柳川市))			
高島城	たかしまじょう	生葉郡	八女市星野村	132	20	—
高城	たかじょう		→鷺岳城 (わしがたけじょう)			
高衆城	たかすだじょう	上妻郡	八女市立花町下辺春	149	22	133
高須田城	たかすだじょう		→高衆城 (たかすだじょう)			
高衆谷施城	たかすだだになもみじょう		→高衆城 (たかすだじょう)			
高瀬城	たかせじょう	御井郡	久留米市御井町	19	12	—
鷹取城	たかとりじょう		→鷹取山城 (たかとりやまじょう)			
鷹取城	たかとりじょう	山門郡	柳川市上宮永町	217	26	—
鷹取山城	たかとりやまじょう		生葉郡 / 竹野郡 うきは市浮羽町妹川・八女市星野村・久留米市田主丸町森部			
				94	18	103
立華城	たかはなじょう	上妻郡	八女市黒木町木屋	142	20	—
喬花城	たかはなじょう		→立華城 (たかはなじょう)			
立花城	たかはなじょう		→立華城 (たかはなじょう)			
高丸城	たかまるじょう	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	85	18	95
高三瀬式部少輔館	たかみづましきぶしょうゆうやかた		→高三瀬館 (たかみづまやかた)			
高三瀬館	たかみづまやかた	三瀬郡	久留米市三瀬町高三瀬	34	14	—
高牟礼城	たかむれじょう	上妻郡	八女市黒木町笠原・星野村	140	20	126
高群城	たかむれじょう		→高牟礼城 (たかむれじょう)			
高屋城	たかやじょう	上妻郡 / 生葉郡	八女市矢部村矢部	134	20	124
高山城	たかやまじょう		→兼松城 (かねまつじょう)			
田川城	たがわじょう		→田川館 (たがわやかた)			
田川館	たがわやかた	三瀬郡	久留米市三瀬町田川	36	14	79
竹井城	たけいじょう	山本郡	久留米市草野町吉木	67	16	85
竹井城	たけいじょう	山門郡	みやま市高田町竹飯	206	24	—
武井城	たけいじょう		→竹井城 (たけいじょう (久留米市草野町))			
竹井の今城	たけいのいましろ		→竹井城 (たけいじょう (みやま市高田町))			
竹井牡丹長者館	たけいぼたんちょうじゅやかた		→竹井館 (たけいやかた)			
竹井館	たけいやかた	山門郡	みやま市山川町尾野	207	24	150
竹之城	たけのじょう		→竹井城 (たけいじょう (久留米市草野町))			
田籠城	たごもりじょう		→松尾城 (まつおじょう)			
田尻城	たじりじょう		→飛塚城 (とびづかじょう)			
田尻飛塚城	たじりとびづかじょう		→飛塚城 (とびづかじょう)			
館古賀城	たちこがじょう		→東江上城 (ひがしえがみじょう)			
立石城	たついわじょう	生葉郡	うきは市浮羽町流川	106	18	—
龍石城	たついわじょう		→立石城 (たついわじょう)			
立岩城	たついわじょう		→立石城 (たついわじょう)			
田中兵庫屋敷	たなかひょうごやしき	三瀬郡	久留米市三瀬町高三瀬	D6	28	—
谷川城	たにがわじょう	上妻郡	八女市立花町谷川	161	22	139
谷山城	たにやまじょう	山本郡	久留米市山本町豊田	62	16	—
谷山城	たにやまじょう	生葉郡	うきは市吉井町福益	99	18	107
垂見城	たるみじょう	山門郡	柳川市三橋町垂見	212	26	—
筑後國府跡	ちくごこくふあと	御井郡	久留米市合川町	R7	28	187
千々谷館	ちぢややかた	生葉郡	八女市星野村	128	20	—
知徳城	ちとくじょう	上妻郡	八女郡広川町広川	183	24	143
智徳城	ちとくじょう		→知徳城 (ちとくじょう)			
知徳館	ちとくやかた		→知徳城 (ちとくじょう)			
茶臼城	ちゃうすじょう	上妻郡	八女市長野	166	22	—
茶臼城	ちゃうすじょう	三池郡	大牟田市倉永	222	26	—
茶臼山城	ちゃうすやまじょう		→茶臼城 (ちゃうすじょう (八女市))			
茶臼山城	ちゃうすやまじょう		→茶臼城 (ちゃうすじょう (大牟田市))			
長増山城	ちょうぞうさんじょう		→東光寺城 (とうこうじじょう)			
鎮西探題館	ちんぜいたんだいやかた		→乙隈城 (おとぐまじょう)			

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
築足城	つきあじょう	生葉郡	八女市黒木町大淵	137	20	125
月足城	つきあじょう	→築足城 (つきあじょう)				
津村城	つむらじょう	三瀬郡	大川市津	59	16	83
釣井城	つりいじょう	山本郡	久留米市草野町吉木	68	16	—
鶴ヶ城	つるがじょう	御井郡	久留米市山川町	14	12	71
津留城	つるじょう	山門郡	柳川市大和町六合	213	26	153
鶴田城	つるだじょう	下妻郡	筑後市鶴田	189	24	—
鶴見山館	つるみやまやかた	上妻郡	八女市豊福	168	22	—
寺ん城	てらんしろ	→高岩城 (たかいわじょう)				
問本城	といもとじょう	山本郡か	久留米市草野町か	70	16	—
東光寺遺跡	とうこうじいせき	御井郡	久留米市山川町	R8	28	188
東光寺城	とうこうじじょう	御井郡	久留米市山川町	21	12	—
道雪陣	どうせつじん	上妻郡	八女市柳島	D13	28	—
道藏遺跡	どうぞういせき	三瀬郡	久留米市大善寺町中津	R14	30	191
轟城	とどろきじょう	→生駒野城 (いごまのじょう)				
戸原城	とはらじょう	不明	不明	F5	30	—
飛塚城	とびづかじょう	三池郡	みやま市高田町田尻	211	26	159
富本城	とみもとじょう	竹野郡	久留米市田主丸町竹野	—	30	—
豊福城	とよふくじょう	→今福城 (いまぶくじょう)				
鳥飼城	とりかいじょう	竹野郡	三井郡大刀洗町三川	71	16	—
な						
長岩城	ながいわじょう	生葉郡	うきは市浮羽町新川	123	20	119
中尾烟城	なかおばたじょう	山門郡か	みやま市か	F4	30	—
長崎坊田遺跡	ながさきぼうたいせき	上妻郡	筑後市長崎	R19	30	194
中笛尾岳城	なかささおだけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町竹野	—	30	—
中島城	なかしまじょう	山門郡	柳川市大和町中島	K9	28	176
長瀬城	ながせじょう	生葉郡	うきは市浮羽町高見	14	18	117
長野城	ながのじょう	→茶臼城 (ちゃうすじょう) (八女市)				
中ノ城	なかのしろ	→発心城 (ほっしんじょう)				
中野大膳光臣館	なかのたいぜんみつおみやかた	→国武館 (くにたけやかた)				
長延城	ながのぶじょう	→城ノ尾城 (じょうのおじょう)				
長延館	ながのぶやかた	→山王山城 (さんのうざんじょう)				
中野屋敷	なかのやしき	→城ノ尾城 (じょうのおじょう)				
長浜館	ながはまやかた	→山王山城 (さんのうざんじょう)				
中牟田城	なかむたじょう	→国武館 (くにたけやかた)				
中牟田館	なかむたやかた	下妻郡	筑後市長浜	186	24	—
中村館	なかむらやかた	下妻郡	筑後市中牟田	193	24	—
流館	ながれやかた	下妻郡	筑後市中牟田	192	24	—
梨木山陣	なしのきやまじん	→白口中村館 (しらぐちなかむらやかた)				
生津城	なまづじょう	三瀬郡	筑後市西牟田	50	14	—
生津館	なまづやかた	上妻郡	八女市黒木町木屋	D12	28	—
施城	なもみじょう	三瀬郡	久留米市三瀬町生津	44	14	81
施原城	なもみばるじょう	三瀬郡	久留米市三瀬町生津か	45	14	—
仁右衛門畠遺跡	にえもんばたけいせき	→高榮城 (たかすだじょう)				
西鰯坂城	にしあじさかじょう	生葉郡	うきは市吉井町新治	R16	30	192
西鰯坂館	にしあじさかやかた	御井郡	小郡市下西鰯坂	10	12	70
西江上城	にしえがみじょう	→西鰯坂城 (にしあじさかじょう)				
西葛尾城	にしかずらおじょう	三瀬郡	久留米市城島町江上本	40	14	—
西葛生城	にしかずらおじょう	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	81	18	92
西隈上城	にしくまのうえじょう	→西葛尾城 (にしかずらおじょう)				
西古賀館	にしこがやかた	三瀬郡	久留米市三瀬町西牟田	47	14	—
西城	にじょう	→隈ノ上城 (くまのうえじょう)				
西田口城	にしたぐちじょう	三瀬郡	大川市三丸	60	16	—
西の城	にしのしろ	生葉郡	うきは市吉井町富永	97	18	104
西ノ城	にしのしろ	生葉郡	うきは市浮羽町流川	108	18	114
西の原城	にしのはるじょう	三池郡	大牟田市白銀	225	26	—

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
西原口城	にしはりぐちじょう	→長瀬城 (ながせじょう)				
西牟田城	にしむたじょう	三潴郡	筑後市西牟田	49	14	—
西牟田本村館	にしむたほんむらやかた	三潴郡	久留米市三潴町西牟田	46	14	—
西牟田館	にしむたやかた	三潴郡	筑後市西牟田	48	14	—
西森田遺跡	にしもりたいせき	御原郡	三井郡大刀洗町本郷	R5	28	186
新田城	にったじょう	竹野郡	久留米市田主丸町石垣	89	18	100
奴田館	ぬたやかた	竹野郡	久留米市田主丸町豊城	73	16	—
猫尾城	ねこおじょう	上妻郡	八女市黒木町木屋	143	20	129
は						
飯江城	はえじょう	山門郡	みやま市高田町舞鶴	208	26	151
萩尾城	はぎおじょう	→城ノ尾城 (じょうのおじょう)				
萩尾麟可館	はぎおりんかやかた	→城ノ尾城 (じょうのおじょう)				
八町島城	はっちょうじまじょう	→古賀城 (こがじょう (久留米市))				
花立山城	はなたてやまじょう	→山隈城 (やまぐまじょう)				
馬場館	ばばやかた	上妻郡	八女市広川町水原	175	22	—
濱田城	はまだじょう	山門郡	みやま市瀬高町濱田	203	24	149
原内山城	はらうちやまじょう	三池郡	大牟田市	227	26	—
原口城	はりぐちじょう	→長瀬城 (ながせじょう)				
春野屋敷	はるのやしき	三潴郡	久留米市原古賀町	D4	28	—
日出原南遺跡	ひいでばるみなみいせき	御井郡	久留米市御井町	R10	30	189
東江上城	ひがしえがみじょう	三潴郡	久留米市城島町江上	41	14	—
東葛生城	ひがしかずらおじょう	→内山城 (うちやまじょう (久留米市田主丸町))				
東館遺跡	ひがしたちいせき	上妻郡	八女市山内	R17	30	193
東山城	ひがしやまじょう	生葉郡	うきは市浮羽町小塙	122	20	—
東山城	ひがしやまじょう	→城跡山城 (しろあとやまじょう)				
東山館	ひがしやまやかた	→城跡山城 (しろあとやまじょう)				
干潟城	ひかたじょう	→山隈城 (やまぐまじょう)				
干潟中屋敷遺跡	ひかたなかやしきいせき	御原郡	小郡市干潟	R1	28	184
干潟館	ひかたやかた	→干潟中屋敷遺跡 (ひかたなかやしきいせき)				
彼岸田遺跡	ひがんだいせき	下妻郡	筑後市島田	R20	30	195
久末城	ひさえじょう	山門郡	柳川市三橋町久末	210	26	—
毘沙門岳城	びしゃもんだけじょう	御井郡	久留米市御井町	15	12	73
日田氏館	ひたしやかた	→隈ノ上城 (くまのうえじょう)				
人見城	ひとみじょう	→山下城 (やましたじょう)				
平野城	ひらのじょう	→大間城 (だいまじょう)				
平林城	ひらばやし (でえらばやし) じょう	→山崎城 (やまざきじょう)				
蛭池館	ひるいけやかた	三潴郡	三潴郡大木町蛭池	53	14	—
吹上城	ふきあげじょう	御原郡	小郡市吹上	3	12	—
福島城	ふくしまじょう	上妻郡	八女市本町	K6	26	170
福益城	ふくますじょう	→福丸城 (ふくまるじょう)				
福益館	ふくますやかた	→福丸館 (ふくまるやかた)				
福間別館	ふくまべっかん	→草野別館 (くさのべっかん)				
福間村營	ふくまむらえい	三潴郡	三潴郡大木町福土	D8	28	—
福間館	ふくまやかた	三潴郡	三潴郡大木町福土	51	14	—
福丸城	ふくまるじょう	生葉郡	うきは市吉井町福益	102	18	109
福丸館	ふくまるやかた	生葉郡	うきは市吉井町福益	103	18	—
藤田館	ふじたやかた	上妻郡	八女郡広川町藤田	178	24	—
藤山城	ふじやまじょう	→白木城 (しらきじょう)				
二子塚遺跡	ふたごづかいせき	三潴郡	久留米市荒木町荒木	R12	30	190
麓の城	ふもとのしろ	→城氏城 (じょうしじょう)				
古町城	ふるまちじょう	→海津城 (かいづじょう)				
平家城	へいけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町田主丸	74	16	—
平家城	へいけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町常盤	75	16	—
平家城	へいけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町殖木	78	16	—
平家城	へいけじょう	竹野郡	久留米市田主丸町益生田	87	18	98
平家城	へいけじょう	竹野郡	うきは市吉井町鷹取	92	18	—
平家城	へいけじょう	竹野郡	うきは市吉井町鷹取	93	18	—
平家城	へいけじょう	生葉郡	うきは市浮羽町妹川	100	18	108

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
平家塚城	へいけづかじょう	上妻郡	八女市立花町白木	151	22	—
別所城	べっしょじょう	→毘沙門岳城 (びしゃもんだけじょう)				
辺春城	へばるじょう	→前川内城 (まえかわちじょう)				
保木城	ほきじょう	→熊ノ川城 (くまのかわじょう)				
星野城	ほしのじょう	→岸山城 (きしやまじょう)				
発心城	ほっしんじょう	→山ノ中城 (やまのなかじょう)				
		山本郡 / 竹野郡 / 上妻郡				
		久留米市草野町草野・田主丸町中尾、八女市上陽町上横山・上陽町下横山				
				69	16	86
発心岳城	ほっしんだけじょう	→発心城 (ほっしんじょう)				
堀田屋敷	ほったやしき	三潴郡	三潴郡大木町横溝	D9	28	—
堀切城	ほりきりじょう	山門郡	みやま市瀬高町堀切	204	24	—
堀口城	ほりぐちじょう	三池郡	大牟田市	F7	30	—
本郷城	ほんごうじょう	御原郡	三井郡大刀洗町本郷	9	12	—
本郷城	ほんごうじょう	下妻郡	みやま市瀬高町本郷	196	24	—
本郷館	ほんごうやかた	→三原城 (みはらじょう)				
本星野館	ほんほしのやかた	生葉郡	八女市星野村	131	20	—
本村館	ほんむらやかた	→西牟田本村館 (にしむたほんむらやかた)				
本村館	ほんむらやかた	→本館 (ほんやかた)				
本館	ほんやかた	上妻郡	八女市本	170	22	—
ま						
舞鶴城	まいづるじょう	→鶴ヶ城 (つるがじょう)				
舞鶴城	まいづるじょう	→国見岳城 (くにみだけじょう)				
舞鶴城	まいづるじょう	→飯江城 (はえじょう)				
舞鶴城	まいづるじょう	→三池山城 (みいけやまじょう)				
前川内城	まえかわちじょう	上妻郡	八女市立花町上辺春	147	20	—
舛形城	ますがたじょう	→鷹尾城 (たかおじょう) (八女市山内・大籠)				
益永城	ますながじょう	→平家城 (へいけじょう) (久留米市田主丸町益生田 (No.87))				
益永平家城	ますながへいけじょう	→平家城 (へいけじょう) (久留米市田主丸町益生田 (No.87))				
松尾城	まつおじょう	生葉郡	うきは市浮羽町田籠	124	20	120
松崎城	まつざきじょう	→松崎陣屋 (まつざきじんや)				
松崎陣屋	まつざきじんや	御原郡	小郡市松崎	K1	26	160
松崎館	まつざきやかた	→松崎陣屋 (まつざきじんや)				
松延城	まつのぶじょう	山門郡	みやま市瀬高町松田・山門	K7	28	173
馬間田城	ままだじょう	下妻郡	筑後市馬間田	194	24	—
豆塚長者館	まめつかちょうじゅやかた	→屋形館 (やかたやかた)				
満願寺城	まんがんじじょう	生葉郡	うきは市浮羽町妹川・吉井町福益	104	18	111
万貫城	まんがんじじょう	→満願寺城 (まんがんじじょう)				
満願城	まんがんじじょう	→満願寺城 (まんがんじじょう)				
三池氏館	みいけしゃかた	→大間城 (だいまじょう)				
三池陣屋	みいけじんや	三池郡	大牟田市新町	K12	28	181
三池藩主居館	みいけはんしゅきょかん	→三池陣屋 (みいけじんや)				
三池町館	みいけまちやかた	→三池陣屋 (みいけじんや)				
三池山城	みいけやまじょう	三池郡	大牟田市三池・熊本県南関町久重	230	26	161
水田城	みずたじょう	下妻郡	筑後市水田	190	24	—
溝口城	みぞぐちじょう	→溝口館 (みぞぐちやかた (筑後市溝口))				
溝口館	みぞぐちやかた	→久恵館 (くえやかた)				
溝口館	みぞぐちやかた	下妻郡	筑後市溝口	188	24	—
三沢寺小路遺跡	みつさわたらしゅうじいせき	御原郡	小郡市三沢	R2	28	184
三ツタ力城	みつたかじょう	→山ノ中城 (やまのなかじょう)				
南清松館	みなみきよまつやかた	三潴郡	久留米市三潴町清松	43	14	—
峯切山陣	みねきりやまじん	上妻郡	八女市黒木町木屋	D11	28	183
峯山城	みねやまじょう	生葉郡	うきは市浮羽町三春	115	20	—
耳納城	みのうじょう	→柳坂陣 (やなぎさかじん)				
三原城	みはらじょう	御原郡	三井郡大刀洗町本郷	8	12	69
宮園城	みやぞのじょう	山門郡	みやま市瀬高町大廣園	201	24	148
宮ノ陣	みやのじん	御井郡	久留米市宮ノ陣5丁目	D3	28	—
妙見城	みょうけんじょう	生葉郡	うきは市吉井町富永	98	18	105

城館名	よみがな	旧郡名	所在地	番号	一覧頁	詳説頁
妙見城	みょうけんじょう	→内城城 (うちじょうじょう)				
明顯城	みょうけんじょう	→妙見城 (みょうけんじょう (うきは市吉井町富永))				
妙見西城	みょうけんにしじょう	→西の城 (にしのしろ (うきは市吉井町富永))				
妙見出城	みょうけんでじろ	生葉郡 うきは市吉井町鷹取 / 富永		—	30	—
妙見山城	みょうけんやまじょう	→妙見城 (みょうけんじょう (うきは市吉井町富永))				
妙福寺ノ城	みょうふくじのしろ	上妻郡 不明		F1	30	—
向城	むかいじょう	→白牧大岩屋名城 (しらまきおおいわやなじょう)				
向築地長者館	むかいいじじょうじややかた	御原郡 小郡市小郡		D1	28	—
麦生城	むぎおじょう	→高丸城 (たかまるじょう)				
麦生館	むぎおやかた	→内山館 (うちやまやかた)				
宗崎遺跡	むねさきいせき	→宗崎館 (むねさきやかた)				
宗崎館	むねさきやかた	御井郡 久留米市御井町		—	30	—
森部の平家城	もりべのへいけじょう	→平家城 (へいけじょう (うきは市吉井町鷹取 (No.92)))				
問註所氏館	もんちゅうじょしゃかた	→井上館 (いのうえやかた)				
や						
屋形館	やかたやかた	生葉郡 うきは市吉井町屋部		95	18	—
安武古町城	やすたけふるまちじょう	→海津城 (かいづじょう)				
安山城	やすやまじょう	生葉郡 うきは市浮羽町流川		105	18	112
柳川城	やながわじょう	山門郡 柳川市本城町		K10	28	177
柳河城	やながわじょう	→柳川城 (やながわじょう)				
梁河城	やながわじょう	→柳川城 (やながわじょう)				
柳坂城	やなぎさかじょう	山本郡 久留米市山本町柳坂		63	16	—
柳坂陣	やなぎさかじん	山本郡 久留米市山本町柳坂		D10	28	—
柳島城	やなじまじょう	上妻郡 八女市北田形		163	22	—
矢部山城	やべやまじょう	→高屋城 (たかやじょう)				
山隈城	やまぐまじょう	御原郡 / 筑前国夜須郡 小郡市山隈・朝倉郡筑前町四三嶋・山隈		2	12	68
山崎城	やまざきじょう	上妻郡 八女市立花町山崎		158	22	136
山下国見岳城	やましたくにみだけじょう	→国見岳城 (くにみだけじょう)				
山下城	やましたじょう	上妻郡 八女市立花町北山		155	22	134
山ノ上城	やまのうえじょう	→谷山城 (たにやまじょう (うきは市吉井町福利))				
山ノ中城	やまのなかじょう	竹野郡 久留米市田主丸町石垣		88	18	99
弓削城	ゆげじょう	御井郡 / 山本郡 久留米市山本町豊田・山川町		26	12	—
横溝氏館	よこみぞしやかた	三瀬郡 久留米市三瀬町高三瀬		35	14	—
横溝城	よこみぞじょう	→城ノ内城 (じょうのうちじょう)				
横溝館	よこみぞやかた	→堀田屋敷 (ほったやしき)				
吉井城	よしいじょう	→松延城 (まつのぶじょう)				
吉岡城	よしおかじょう	下妻郡 みやま市瀬高町文廣		199	24	—
吉木館	よしきやかた	山本郡 久留米市草野町吉木		65	16	—
吉田大陸城	よしだだいぜんじょう	下妻郡 筑後市馬間田		195	24	—
吉田館	よしだやかた	上妻郡 八女市吉田		173	22	—
吉野内山城	よしのうちやまじょう	→内山城 (うちやまじょう (大牟田市吉野))				
吉野尾館	よしのおやかた	山本郡 久留米市草野町吉木		66	16	—
吉見岳城	よしみだけじょう	御井郡 久留米市御井町・山川町		18	12	76
芳水嶺城	よしみだけじょう	→吉見岳城 (よしみだけじょう)				
ら						
龍造寺陣	りゅうぞうじん	下妻郡 筑後市鶴田		D15	28	—
わ						
若松城	わかまつじょう	御井郡 久留米市宮ノ陣町若松		23	12	—
鷺ヶ城	わしがじょう	→鷺岳城 (わしがたけじょう)				
鷺岳城	わしがたけじょう	上妻郡 八女市黒木町木屋		144	20	—

報 告 書 抄 錄

福岡県行政資料	
分類番号 J H	所属コード 2133051
登録年度 28	登録番号 1

福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書4

福岡県の中近世城館跡IV

—筑後地域・総括編—

附.福岡県の近世台場・遠見番所・烽火台跡

福岡県文化財調査報告書第260集

平成29年3月31日

発 行 福岡県教育委員会
〒812-8575
福岡県福岡市博多区東公園7番7号

印 刷 株式会社 四ヶ所
〒838-8512
福岡県朝倉市馬田336

